

教育委員会の所管事務に係る 点検・評価報告書

(令和5年度事業)

令和7年2月

桑折町教育委員会

目 次

第 1 点検及び評価の概要

1 はじめに	1
2 評価の進め方	1
(1) 点検及び評価の対象	
(2) 点検及び評価の方法	
3 外部有識者の知見の活用	1
4 報告及び公表	2

第 2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

○ 令和 5 年度桑折町教育委員会重点	3
○ 評価	
・ こども教育係	6
1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育	8
2 一人一人を大切にする温かい教育	20
3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成	24
4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続	31
5 家庭への手厚い子育て支援	34
6 小中学校のあり方の検討	39
7 教育施設・設備の充実	41
・ 生涯学習係	43
1 生涯学習活動の推進	44
2 社会体育・生涯スポーツの推進	57
3 歴史まちづくりの推進	61

第 3 教育委員会の校長に委任する事務の管理及び執行状況

○ 学校経営評価報告書（小学校 4 校、中学校 1 校）	65
○ 学校経営自己評価票（小学校 4 校、中学校 1 校）	85

第 4 教育委員会の園長に委任する事務の管理及び執行状況

○ こども園経営評価報告書	95
○ 経営自己評価票（幼稚園 1 園、保育所 1 所）	97

第 5 第三者評価委員会による評価

○ 会議開催経過と主な内容	101
○ 評価に対する評価委員からの意見等	101

第 6 参考資料

○ 桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者委員会設置に関する規則	
○ 桑折町教育大綱	
○ 桑折町の 15 歳のめざす姿	

第1 点検及び評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することとされています。

桑折町教育委員会では、同法の規定及び桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則に基づき、教育委員会の重点施策について点検・評価を実施するものです。

[抜粋] 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の進め方

(1) 点検及び評価の対象

- ① 「令和5年度桑折町教育委員会重点」に掲げた取組みに関する自己評価
- ② 町立小中学校の学校経営評価
- ③ 町こども園の園経営評価

(2) 点検及び評価の方法

(1)の①については、それぞれの担当者による自己評価(*)と教育委員評価、(1)の②・③については小中学校長・こども園長、保育所長による自己評価を行い、これに対し、学識経験を有する者による「第三者評価」を行います。

評定については、4段階評価（A：大変良い、B：良い、C：やや悪い、D：悪い）で行います。

*生涯学習・スポーツ関係は社会教育委員、文化財関係は文化財保護審議委員による評価も付す。

3 外部有識者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、外部有識者による知見を活用するため「第三者評価委員会」

を設置し、教育施策の一層の改善・充実を図ります。

[第三者評価委員]

- 岡 崎 一 也 （元 伊達市立梁川小学校長・伊達地区小中学校長協議会長）
- 佐 久 間 敏 彦 （現 福島市生涯学習課生涯学習指導員・元 福島県教育庁県北教育
事務所社会教育課長）
- 中 田 巧 （前 町 P T A 連絡協議会副会長・醸芳中学校 PTA 副会長）

4 報告及び公表

点検及び評価結果をまとめた報告書は議会へ提出するとともに、町公式ホームページへの掲載により公表します。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

令和5年度 桑折町教育委員会重点

I 基本目標

桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、町の将来像「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

II 基本方針

1 子どもを大切にするまちづくり

みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような乳幼児保育・教育や学校教育の推進を通して、子育て支援の充実と「桑折町の15歳のめざす姿(人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子)」の実現に努める。

2 健康長寿で元気なまちづくり

生涯学習・生涯スポーツ事業の推進を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で生き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。

3 交流で絆を育むまちづくり

歴史まちづくりの推進を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。

III 重点施策

1 乳幼児保育と教育の充実

(1)待機児童ゼロの堅持

- ①認定こども園の開設に伴う既存保育所の運営移行
- ②保育士や支援員の確保

(2)幼児教育の質の向上と小中学校への接続

- ①特別支援教育の充実：ことばの教室・就学相談会
- ②環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実
- ③保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施（架け橋期カリキュラムの検討）

(3)家庭への手厚い子育て支援

- ①幼稚園給食実施の充実

2 学校教育の推進

(1)一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進

①脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践

②運動身体づくりプログラム、運動継続の各校（園）一実践

③不登校・いじめ対策

(2)新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①英語体験活動の実施

②英語指導助手・指導協力員の活用

③1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、ICT支援員配置・活用と教職員研修、ICT教育環境の整備と充実

④持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育

(3)一人一人を大切に作る温かい教育

①特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用

②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、教育支援センターによる教育機会確保と学校復帰支援

(4)家庭への手厚い子育て支援

①学校給食費助成の拡充

(5)教育施設・設備の充実

①施設・設備の計画的な維持管理・整備

(6)小中学校の在り方の検討

①学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討

②小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入の検討

3 生涯学習の推進

(1)生涯学習活動の推進

①生涯学習推進基本計画の推進

- ・桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）の策定
- ・ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

(2)公民館施設等の管理運営

①社会教育施設等の適正な維持管理

- ・各施設の安定的な管理と維持補修

(3)芸術・文化の振興

①芸術・文化に触れる機会の創出

- ・芸術鑑賞会や文化講演会の開催
- ・町文化団体連絡協議会等の活動奨励・支援

(4)多世代交流の推進

①地域学校協働活動事業の推進

- ・ ボランティア人材の発掘
- ・ 多世代交流の機会創出
- ・ 学校部活動地域移行に向けた検討

(5)多文化交流の推進

①多文化交流の機会創出

- ・ 多文化に関する学習機会の提供（公民館講座等）

4 生涯スポーツの推進

(1)健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進

①健康・体力づくり教室・講座の展開

- ・ 水泳、運動、スポーツ活動等による基礎体力保持・増進事業の開催

(2)スポーツ団体等の支援

①関連団体との連携・活動支援

- ・ 各種団体との連携強化

(3)体育施設等の充実

①施設環境の改善

- ・ 体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討
- ・ 経年劣化等に伴う施設設備等の維持補修

5 歴史まちづくりの推進

(1)歴史的風致維持向上計画の推進

①桑折町歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進

②旧伊達郡役所周辺整備

③歴史案内人育成の推進と活動の充実

④ふるさと教育の推進（歴史学習、子ども歴史案内人育成等）

(2)文化財の保護・活用の推進

①史跡桑折西山城跡保存と活用の推進

②文化財保存団体との共同による保存と活用

(3)桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し

①旧伊達郡役所保存と活用の推進

②種徳美術館収蔵美術品及び歴史・考古資料の保存・活用のあり方検討

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育				
(1) 〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。	B	B	-	B
(2) 〔体力向上〕子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。	B	B	-	B
(3) 〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。	B	B	-	B
2 一人一人を大切にする温かい教育				
(1) 〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。	B	B	-	B
3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成				
(1) 〔英語教育〕子どもたちに英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。	B	B	-	B
(3) 〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。	B	B	-	B

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続				
(1) 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。	B	B	-	B
(2) 〔小中学校との連携〕幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。	B	B	-	B
5 家庭への手厚い子育て支援				
(1) 〔経済的支援〕「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。	B	B	-	B
(2) 〔家庭教育支援〕家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。	B	B	-	A
6 小中学校のあり方の検討				
(1) 〔少子化への対応〕小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔学校運営の改善〕今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。	B	B	-	B
7 教育施設・設備の充実				
(1) 〔学校施設〕安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。	B	B	-	B
(2) 〔給食センター〕安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。	B	A	-	B

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	(1) 〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。 ① 脳科学研究に基づく生活習慣改善（生活の基盤づくり） ② 読み・書き・計算徹底反復（学習の基盤づくり） ③ 探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践 ④ 家読奨励 ⑤ 桑折学習塾		
重点項目 と評価	①	① 川島隆太先生の著書の配付及び特別授業開催	a
		② 各学年での生活習慣の指導（学級活動）	b
		③ 家庭教育学級の実施、「家庭生活習慣のポイント」の広報・活用	b
	②	① 町内小学校の共通実践（目標達成に向けた集中実施期間設定、チェックテスト）	a
		② 読み・書き・計算徹底反復研修会の実施	b
	③	① 町内連携授業研究会	b
		② 秋田「探究型授業」研修	a
		③ 県教委「学びのスタンダード」の活用	b
		④ 学力の実態把握と分析、対策の立案と実践	b
	④	① 家読運動とりくみコンクールの実施	b
		② 学校司書の活用による学校図書・読書に関わる環境の充実	b
		③ 幼稚園、絵本コーナーの充実と活用、絵本の貸し出し、家庭での読み聞かせの奨励	a
⑤	① 小学生対象…算数（算数ジュニアオリンピックへの支援を含む）・国語（年8回）	b	
	② 中学生対象…数学・英語（年16回）	b	
具体的な取組	①	① ・川島隆太氏の著書の配付及び東北大学加齢研究所准教授榊浩平氏の特別授業の開催（4月 醸芳中）	
		② ・各小・中学校における学級活動での生活習慣の指導（4月）	
	②	① ・重点実施期間における町教育委員会視察訪問の実施 ：6月・9月 ・チェックテスト（3回）の実施と分析：7月・11月・2月	
		② ・教職員全体研修会における徹底反復マニュアル及び徹底反復実践事例集（DVD）を活用した研修の実施	
	③	① ・各校の各校一指定授業（ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会、秋田探究型授業研究会を含む）及び各学校ごとの授業研究会の実施	

具体的な取組	③ ② ・秋田大学名誉教授阿部昇氏の指導による探究型授業研究会の実施（9月 睦合小）			
	③ ③ ・授業研究会と各種研修による授業改善 ・「桑折町小学校・学びのスタンダード」（下敷き）の活用。			
	④ ④ ・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査結果の分析と対策の検討			
	④ ① ・毎月23日を「家読の日」としての家読とりくみコンクールの実施			
	② ② ・学校司書を活用した図書の整理や読書活動の促進			
	③ ③ ・絵本棚の充実 ・毎週1回、全幼児に絵本の貸し出し実施。 ・家庭での読み聞かせの奨励。（絵本の読み聞かせカード）			
	⑤ ① ・4小学校において、国語と算数の実施。			
	② ② ・中学生に対して数学・英語の実施。			
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② ①	チェックテスト：百ます計算	低学年：2分 中学年・高学年：1分30秒以内 百ます：50%	43%が合格
		チェックテスト：漢字	学年漢字習得率 8割 漢字：6／6学年	学年漢字習得率 89% 6／6学年達成
	③	全国学力・学習状況調査及びふくしま学力調査県平均を超える割合	11／15教科	6／14教科 1教科 同値
	④ ①	個人賞・家族賞・学級賞	個人賞：90% 家族賞：80% 学級賞：80%	個人賞：78% 家族賞：66% 学級賞：46%
	③	読み聞かせカード取り組み率	70%以上	92%

数値目標と 数値実績	⑤ ①	桑折学習塾（小学校）参加率	（前年度実績） 醸芳小：８％ 睦合小：３７％ 半田醸芳小：３３％ 伊達崎小：３２％	醸芳小：８％ 睦合小：４８％ 半田醸芳小：２３％ 伊達崎小：４２％
	②	桑折学習塾（中学校）参加率	（前年度実績） ３年生：４９％ ２年生：５８％ １年生：４７％	３年生：６３％ ２年生：５７％ １年生：４５％
成果・評価	① ①	・中学１年生に川島先生の著書「読書がたくましい脳をつくる」を配付し、榊浩平准教の講演会を醸芳中学校の授業参観時に実施したことにより、生徒の生活習慣についての意識が高まった。		
	②	・第１回園長・校長会議で紹介した視聴覚教材を活用するなどして、生活習慣の大切さについて、各学校で授業を行い、児童生徒の意識を高めた。		
	② ①	・重点実施期間はどの小学校も、管理職が全担任の活動を参観し、指導の充実が図られた。 ・重点実施期間において、町教委及び各小学校の管理職が視察訪問をすることにより、各校の取組のレベルアップを図った。 ・チェックテストを分析したところ、百ます計算は全児童の４３％が合格し、漢字は全学年とも漢字習得率が目標の８７％を達成することができた。昨年度より合格率、習得率が数％アップした。		
	②	・４月の全体研修会時に読み・書き・計算について、マニュアルを確認するとともに、実際に体験する研修を通して、指導力の向上を図ることができた。		
	③	・阿部昇先生など外部講師を招聘した秋田探究型授業研究会、ICT活用授業研究会、徹底反復の効果を活かす授業研究会を始め、各校の 一校一指定授業及び各学校ごとの授業研究会を実施し、新しい知見を得るとともに、指導力の向上を図った。 ・１１月に東成瀬村の小・中学校への研修視察を各校教頭、研修主任５名で実施し、その視察から、授業づくりだけでなく授業研究会の進め方、そして掲示物等の環境整備についても有効な知見を得てきた。		
	③ ③	・ふくしまの「授業スタンダード」を踏まえて、授業研究会などにより授業改善に努めた。また、「桑折町小学校・学びのスタンダード」を活用して学習のしかたについて指導した。		

成果・評価	③ ④	・全国学力・学習状況調査とふくしま学力調査そしてNRT学力検査の結果を分析し、授業改善の方向性について示すとともに、各校において対策を考案・実施した。また、Hyper-QUテストとNRT学力検査のクロス集計を活用して学級づくりにいかした。
	④ ①	・毎月23日を「家読の日」とし、小学校は4月から1月までの10回をコンクール対象とした。 ・1, 2年生の実施率は90%を超した。5, 6年生は67%と学年が上がるに従って、実施率が下がる傾向がある。その一方で、特別支援学級の児童が70%を超している。取組の難しさはあるものの、小規模校ではあるが、児童、家庭ともに100%を達成している学校がある。
	②	・学校司書を中学校に配置するとともに、年間11回ずつ小学校への巡回訪問を実施し、図書の整理や読書活動を促進した。
	④ ③	・町からの予算を活用して各絵本棚の充実に努めた。 ・毎週1回、全幼児に絵本を貸し出しており、楽しんで読み聞かせをする家庭が増えている。 ・保育参観日の園長講話や読み聞かせカードを通して、読み聞かせの大切さを知らせた。
	⑤ ①	・4小学校において、国語と算数を1学期と2学期に2回実施した。(計8回) ・指導主事、教員OBとともに、国語科、算数科を中心とした学習教材を準備して実施した。参加率は学校によって差が見られた。
成果・評価	⑤ ②	・中学校3年生は、名城塾が講師を務め、標準コース・発展コースに分かれて6月から12月までの計15回実施した。 ・中学1, 2年生は、指導主事、教員OB、福島大学学生ボランティア(4名)等が講師を務め、6月から3月までの計16回開催した。
改善・充実策	① ②	・健全な生活習慣の指導について、共通実践が図られていない学校があるので、個別の働きかけを強める。
	② ①	・集中力や高度な基礎学力を身に付けることなど、徹底反復学習のねらいや意義の共有化を図り、さらに指導力を向上させていく必要がある。

改善・充実策	④ ① ・家読運動とりくみコンクールも学校・学級により温度差がある。多忙化の軽減を図りながら、読書の意義を確認して実施率を上げていきたい。
	③ ・絵本の読み聞かせカードへの取り組みについて、継続的な意欲付けが課題である。
	⑤ ① ・参加率が低い学校について、校長会等で働きかけていきたい。
	② ・次年度も、中学３年生は１２月までの１６回とする。保護者への周知・PRの方法を工夫するなどして、参加生徒を増やしたい。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	(2) 「体力向上」子どもたちが生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を育成し、県トップレベルの体力・運動能力を実現する。 ① 「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進 ② 給食を活用した食育 ③ 運動身体づくりプログラム ④ 運動継続の一校（園）一実践 ⑤ 地域スポーツとの連携		
重点項目と評価	①	① 家庭と連携した基本的生活習慣の定着を図る取組み	a
	②	① 安全・安心な学校給食の提供	b
		② 町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する情報の提供	b
		③ 栄養教諭と連携した「食育授業」の計画的・継続的な実施	b
		④ 家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	b
	③	① 幼児期運動指針・運動身体づくりプログラムの継続的・効果的实践	b
		② 運動遊びを中心とした体を動かす活動の充実、外部講師による運動遊び、ダンス教室実施	b
		③ 体力向上授業研究会の開催	b
	④	① 体力テスト結果に基づく課題（運動能力・肥満児出現率）の明確化	b
		② 業間運動や昼休み等の時間の活用（長距離走の奨励）	b
		③ 中学校部活動の充実・適正化	b
		④ 自力登校等の日常的な生活運動の呼びかけ	b
⑤	① 町小学生陸上競技大会参加の奨励	b	
	② スポーツ少年団などの地域スポーツクラブとの連携	b	
具体的な取組	①	① ・体力向上推進委員会による子どもの体力向上プランの制定と運動の重点化 ・園だよりや保健だよりによる取組の推進	
	②	① ・安全・安心な学校給食の提供（安定的な食材の確保）	
		② ・町ホームページや「献立表」「給食だより」等での食育に関する定期的な情報の提供	
		③ ・各学校の養護教諭と栄養教諭との連携を図った「食育授業」の計画的・継続的な実施	
		④ ・朝食アンケートによる取組推進 ・家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけ	

具体的な取組	③ ① ・運動身体づくりプログラムの自校化 ・幼稚園における戸外遊びの励行：毎日1回（60分以上目安） ・幼児期運動指針を意識した取組の推進（1学年1実践、1学級1実践への取組）			
	② ・ストリートダンス教室、元気っこ運動教室、心のケア運動教室の実施			
	③ ・会津大学講師を招聘し、町の体力の課題（スピード・全身持久力・筋持久力）に応じた動きづくりの指導法研修会			
	④ ① ・新体力テストの結果の分析			
	② ・各学校における1校1実践			
	③ ・体育・文化活動事業補助金交付			
数値目標と数値実績	④ ④ ・自家用車で送られて来る児童・生徒の減少に向けてPTA総会等で自力登校の推奨			
	⑤ ① ・各小学校において、福島大学トラッククラブ等を講師とした陸上教室の実施および大会参加に向けた意識醸成			
		項目	数値目標	数値実績
	② ④	『朝食について見直そう』アンケート(朝食摂取児)	90%以上	1回目 97.5% 2回目 99.5%
成果・評価	④ ①	体力テストの4種別（小5・中2・男・女）の合計得点	全科目県平均超 2／4種別	県平均超 2／4種別
	① ① ・新体力テストからの町の課題である「スピード・全身持久力・筋持久力」の改善に向けて、町として重点的に取り組む内容を明らかにして取り組んだ。 ・幼稚園では、感染症予防に努める中、意識して手洗いうがいの習慣作りに努めることができた。			
	② ① ・物価高騰等の影響による食材等の値上げが顕著となったが、地方創生臨時交付金を活用し、予算補正しながら、栄養価を下げることなく安全・安心な学校給食を提供できた。また、可能な限り町産・県産食材の確保に努めながら、安定的に給食を提供できた。さらに、「町産食材活用学校給食事業（こおりっ子給食）：7月・11月」や「ふくしま旬の食材等活用推進事業：9月・12月」により、町産・県産食材をふんだんに活用した給食提供事業に取組み、子どもたちの地元農業への理解や郷土愛を育む機会を設けることができた。			
	② ② ・町ホームページに、毎日の給食の写真等と毎月の「献立表」「給食だより」を掲載することで、子どもたちやその家族等に対して食育に関する情報を提供し、関心を促すことができた。			

成果・評価

- | | |
|---|--|
| ② | <p>③ ・栄養教諭による「食育授業」の計画的・継続的な実施により、子どもたちの食に対する興味・関心を高めることができた。また、毎月の給食残菜の状況を資料にまとめ各学校に情報提供することで、教員等も給食指導に対して積極的になり、残菜が減った学校もみられた。</p> |
| | <p>④ ・家庭に対する朝食の質（食事内容）の改善への呼びかけとしては、栄養教諭が各小学校の保健委員会の会議に出席し、生活習慣の改善も必要であることを伝え、学校から家庭に働きかけてもらった。また、令和5年度の幼小中の子どもたちの朝食摂取率は平均で98.5%であったが、朝食での野菜の摂取割合は約50.6%であったため、更なる呼びかけが必要だったと感じた。</p> |
| ③ | <p>① ・新体力テストからの町の課題である「スピード・全身持久力・筋持久力」の改善に向けて、町として取り組む内容を、体育の授業や朝の時間を中心に、各校で重点的に取り組んだ。</p> <p>・幼稚園においては、学年毎に実践内容を明確にし、年間を通して取り組むことで、運動に親しむ園児が増えた。</p> <p>③ ・会津短期大学の講師を招聘し、指導法研修会を実施した。児童の体力の推移や現状、体力低下の要因と対応策について研修を行った。また、授業に生かせる運動例や動きづくりについて実技研修も行い、本町の課題に特化した研修を行うことができた。</p> |
| ④ | <p>① ・全科目県平均超2／4種別を目標としたが、達成は2／4種別で昨年度より上がった。中学校が低い結果となったが、肥満傾向が高いことが明らかであり、低い結果となった原因の一つと考えられる。</p> <p>② ・各校ごとに工夫を凝らし、学校ごとに課題に合った実践がみられた。（朝マラソン・業間マラソン・部活動対抗駅伝など）</p> <p>③ ・大会参加経費や用具購入に充ててもらうことにより、生徒が部活動に専念できる環境づくりができた。</p> <p>④ ・各小・中学校で家庭に呼びかけた。</p> |
| ⑤ | <p>① ・令和4年度、運営主体を学校から町教委に移行し、社会体育活動として初めて実施した小学生陸上競技大会は、残念ながら雨天及び酷暑により中止となった。しかし、参加申込者は在籍児童の8割を超えていた。</p> |

改善・充実策	② ① ・物価高騰等により、直接、食材等の値上げに影響が出てきているが、しっかりと予算を確保し、町産・県産食材を使用しながら安全に安心できる給食を安定して提供していく。
	② ② ・引き続き町ホームページなどを活用し、子どもたちの成長のために有益な食育情報を提供していく。
	④ ④ ・朝食摂取率は99%だが汁物、野菜の摂取率は約50%である。食事内容を意識した取組みもしていきたい。
	③ ③ ・次年度は、さらに課題に視点をあてた指導法を研修する。
	④ ① ・体力合計点と肥満度のクロス集計から、中学校の肥満傾向は体力合計点を下げる原因になっていると考えられるため、体育科と部活動を中心に肥満解消のための取組が必要である。肥満は運動のみならず、食事も関わっているため、夜食を控えたり、栄養バランスの取れた食事指導をしたりする必要がある。
	⑤ ① ・酷暑を考慮し、実施時期の検討が必要である。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

重点施策	(3) 「心の教育」子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。 ① 不登校・いじめ対策 ② 規律・礼節の重視 ③ 体験活動・平和学習・キャリア教育の充実 ④ ふるさと教育（西山城見学など）の拡充			
重点項目と評価	①	① 不登校対策会議・いじめ問題対策連絡協議会等による連携強化・組織的対応		b
	②	① 道徳授業の改善・充実		b
		② あいさつ運動の推進		b
		③ 生活のきまりの指導		b
		④ 情報モラル教育の実施		b
		⑤ P T A ・青少年育成町民会議との連携		b
	③	① 体験活動や鑑賞教室の実施		a
		② 被爆地に学ぶ平和学習		a
		③ キャリア教育の充実		b
	④	① ふるさとの自然・文化・歴史等について「見る・知る・学ぶ」学習機会の拡充		b
		② 小学校西山城跡見学学習の実施		b
		③ 地域素材や地域人材バンクの効果的な活用		a
具体的な取組	①	① ・不登校対策会議及びいじめ問題対策連絡協議会の開催		
		② ① ・各小・中学校で授業参観における道徳科授業の公開		
	②	④ ・ I C T 支援員の活用		
		③ ① ・校外学習、総合的な学習の時間、土曜学習及び3・4学年を対象とした演劇鑑賞教室 ・幼稚園において、音楽鑑賞会の実施		
	③	② ・被爆地広島への児童派遣および派遣児童による報告発表		
		③ ・「キャリアパスポート」小学1年生へ配付し、各校においてキャリア教育に活用（中学卒業まで活用）。		
		④ ① ・各小・中学校における学習取組の実施		
	④	② ・小学校における西山城跡見学学習の実施		
		③ ・地域学校協同活動本部事業の活用		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績

成果・評価	<p>① ① ・ 5 月に拡大生徒指導委員会として、各小・中学校長、生徒指導主事、養護教諭、中学校の学年主任が参加し、不登校対策会議を開催し、不登校傾向の児童生徒の状況とその対策について共通理解を図った。</p> <p>・ 6 月にはいじめ問題対策連絡協議会を開催した。各機関が連携を図ることにより、いじめ見逃しゼロという考えを共有し、早期発見・早期対応を心がけた。重大事案には至らなかった。</p>
	<p>② ① ・ 各小・中学校で授業参観に道徳科の授業を公開する機会を設け、道徳科への保護者の関心を高めた。また、対話し議論する道徳になるように、多面・多角的に考えることができる発問を工夫するよう授業研究会等で指導した。</p>
	<p>④ ・ 中学校の技術科や小学校の総合学習で、情報モラル、情報リテラシーについて、指導を行い SNS、インターネットにかかわる危険性やモラルについて指導を行った。</p> <p>・ 今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはない。</p>
	<p>③ ① ・ 9 月に町内小学 1 ～ 4 年生を対象とし、演劇鑑賞教室を実施した。「あとむの時間はアンデルセン」という演目で、プロの劇団の演劇について、児童はその内容と表現力に大いに刺激を受けた。</p> <p>・ 幼稚園において、令和 4 年度と同様にマリンバの音楽鑑賞会を実施した。園児の発達にあわせて園児がリズム打ちや歌う楽しい内容であった。</p>
	<p>② ・ コロナ禍後、昨年度に引き続き広島平和記念式典に児童を派遣した。式典の参加とともに、原爆資料館、原爆ドーム等の広島訪問は、平和の尊さとその意義を多くの人に伝えることの大切さを児童の心に深く刻んだ大変価値のある体験となった。帰町後は、各校で意見発表を行い、年度末に事務局で事業報告書をまとめ小学 5 ・ 6 年生に配付した。派遣事業の成果をに周知することで、次年度の取り組みへ繋いだ。</p> <p>派遣児童は 5 名（各校 6 年生 1 名。なお醸芳小学校は 2 名）</p>
	<p>④ ① ・ 各小・中学校において、総合的な学習の時間のカリキュラムに沿って、学習が進めた。学校によっては、生涯学習系の学芸員、地域住民等をゲストティーチャーとして招聘し、体験活動を通して学びを深めた。</p>

成果・評価	<p>④ ② ・どの小学校も6年の総合的な学習の時間に10時間を目安に組み入れて、現地学習、学芸員による学習を行った。</p> <p>③ ③ ・ファミリー文庫お話し会や夏野菜の植え付け体験、サツマイモ等の収穫体験をサポートいただき園児の絵本、野菜に関する興味の芽生えに成果を得られた。</p> <p>・小学生を対象に、琴の演奏体験や商工会の方に町の産業をお話していただく等の活動も行った。</p>
改善・充実策	<p>② ④ ・今のところ、タブレット端末機の持ち帰り等でトラブルはないが、スマホ等の端末の所持率が上がっていることから、さらに情報モラル・情報リテラシーの教育は強めていきたい。</p> <p>③ ① ・演劇鑑賞の貴重な機会として、来年度も実施を継続したい。</p> <p>④ ② ・これから求められる力として、児童の積極的に発信できる力を伸ばしたい。</p> <p>③ ③ ・園児や児童にとって、貴重な学習の機会となっており、コロナ感染症が5類になったことから、さらに活動を充実させていきたい。必要に応じて、生徒対象の活動も実施したい。</p>
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

2 一人一人を大切にする温かい教育

重点施策	(1) 〔特別支援教育〕 特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。 ① 特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用 ② 関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立			
重点項目 と評価	①	① 教育的ニーズに応える学びの場の整備	a	
		② 指導体制の整備	a	
	②	① 校内での連携	b	
		② 関係機関との連携	b	
具体的な取組	①	① ・通級指導教室 特別支援学級の運営 ・適切な桑折町教育支援委員会の開催 (就学指導担当者会議 就学時教育相談 就学指導審議会)		
		② ・特別支援教育支援員の配置と研修の充実 特別支援教育支援員研修会 年3回 支援員の評価		
	②	① ・園内での支援の実態把握 ・校内教育支援委員会の開催		
		② ・特別支援学校（地域支援センター）との連携		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	① ・巡回型の通級指導教室として、担当教員が一人一人の課題・ニーズを踏まえて教育課程を編成し、指導・支援を行った。児童のソーシャルスキルがアップし、より安定して授業に取り組む姿が見られるようになった。 ・就学指導に関わる3種類の会議を開催し、特別な支援が必要な児童生徒についての理解を深めると共に、適切な就学先について丁寧に検討することができた。		
		② ・年間3回の研修会を通して、支援員の役割と児童生徒への場面ごとの支援の仕方などを学び、より適切な支援を行えるようになった。		
	②	① ・5月に支援の実態把握を実施した。健康面で留意しなければならない幼児も含まれる。職員が共有していることで幼児の変化に気づくことができ、有効である。 ・学期ごとに開催する校内教育支援委員会において、実態把握を行うとともに、教員間での情報共有や就学指導につなげる取り組みを行った。		

成果・評価	② ② ・県の地域支援体制整備事業を活かして、だて支援学校から講師を招き、研修会を実施することができた。
改善・充実策	② ① ・各校での担任、支援員、他の教員等の指導・支援の共通理解を深めるために、有効なケース会議の持ち方等の研修を深め、より指導・支援の効果を高めたい。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

2 一人一人を大切にする温かい教育

重点施策	(2) 「不登校対応」子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。 ① 不登校が起きない学級・学校づくり ② スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援 ③ 教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援		
重点項目と評価	①	① 魅力あるよりよい学級・学校づくりの推進	b
		② 学校生活アンケート（Q U）等による子ども理解と実態把握、結果の活用	b
	②	① スクールカウンセラー（SC）による教育相談の推進	b
		② スクールソーシャルワーカー（SSW）による家庭支援と関係者の連携推進	b
	③	① 教育支援センター（A Y U M I）における児童生徒の居場所づくり	b
		② 関係機関との連携による多様な教育機会の確保	b
具体的な取組		③ スペシャルサポートルーム（SSR、特別教室登校）での支援	b
	①	① ・特色ある魅力ある学校経営・運営の指導	
		② ・町としてのQ U検査の分析と情報共有 ・各小・中学校でQ U検査の分析をもとにした生徒指導委員会の開催。	
	②	① ・S Cの積極的な活用	
		② ・S S Wの積極的な活用	
	③	① ・児童生徒の実態に応じた積極的な活用の呼びかけ	
数値目標と数値実績		③ ・教育委員会としての支援員の配置	
		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	① ・児童生徒にとって魅力的な学校となるよう、教職員人事評価制度の面談等を活用して、校長・教頭のより円滑な学校経営・運営について取組を評価し、指導した。	
		② ・町としてのQ U検査の分析を行い、校長会議で開示し、町全体の傾向について情報共有を図った。小学2年生4年生の結果が良くなかったので、対処するよう指導した。	

成果・評価	②	①	・町雇用の小学校のＳＣについては、各小学校の保護者とのカウンセリングを実施するとともに、令和５年度からWISC-Vの検査を実施した。 ・中学校配置の県のＳＣについては、マイナス思考が強い生徒のカウンセリングにあたり、心の安定を図るなどした。
	②	②	・ＳＳＷは、中学校において多くの家庭、保護者との教育相談、家庭訪問を実施し、改善傾向が見られた。
	③	①	・ＡＹＵＭＩの利用者はいなかった。不登校傾向の児童生徒は減少傾向にあり、中学校のＳＳＲと競合する部分があるが、学校に登校できない児童生徒の居場所、学習する場所が必要であるとする。
	③	③	・不登校傾向、不適応生徒が利用した。支援員が寄り添い、学習や生活のサポートを行い、学級復帰と卒業により、年度末には利用者が減少した。
改善・充実策	②	①	・カウンセリングについて教職員、保護者を啓発し、偏見を取りのぞくことによって、適切な実施に結びつけたい。
	③	③	・ＳＳＲにおける個別指導による学力の向上を図るため、教諭と支援員の協力体制を構築したい。
担当者自己評価	B	良	い（目標の通り達成した）
教育委員評価	B	良	い（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B	良	い（目標の通り達成した）

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	(1) 「英語教育」子どもたちに英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。 ① 英語指導助手・指導協力員の活用 ② 英検受験奨励・費用助成 ③ 英語体験活動の実施			
重点項目 と評価	①	① 英語指導助手（ALT）1名の配置・活用	b	
		② 英語指導協力員2名の配置・活用	a	
	②	① 英検受験奨励・費用助成	b	
	③	① 中学生英語体験活動	a	
具体的な取組	①	① ・小学校の外国語科と外国語活動についての外国語教育推進リーダーと英語指導協力員及びALTの指導体制の工夫 ・中学校を中心としたALTの効果的な活用 ・幼稚園におけるALTによる『ALTと遊ぼう』の実施(年長) ・幼稚園における外部講師『英語で遊ぼう』の実施(年少、年中)		
	②	① ・桑折学習塾における中学1，2年生を対象としての英検練習の実施。 ・英検受験奨励として、受験料の半額補助。		
	③	① ・醸芳中学校第2学年ブリティッシュヒルズ宿泊研修		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	英語検定合格者	73名/全校生241名 ※受験者73名	34名/全校生241名 ※受験者54名
成果・評価	①	・外国語教育の指導体制に基づき、幼稚園、小・中学校の外国語（英語）教育を円滑に進めることができた。そして、小学校の外国語科において、ALTを相手に桑折町について紹介したり他校とオンラインで交流したりするなどの活動を通して、児童が意欲的に活動し「話す」「聞く」などの力を高めることができた。 ・幼稚園では年少時から『英語で遊ぼう』で英語に触れているため、年長時の『ALTと遊ぼう』の活動を喜んでいる。ALTへの挨拶を英語で話す園児の姿も見られている。		
	②	・桑折学習塾において、中学1，2年生を対象として英検の問題練習を行った。 ・英語検定受験者数は、全校生徒数の22.4%。合格者数は、全校生徒数の14.1%であった。英検受験に積極的な生徒が限られている現状である。		

成果・評価	③ ・ 11月16日から17日の1泊2日で第2学年、岩瀬郡天栄村ブリティッシュヒルズで宿泊研修を行った。Science Challengeなどの研修をすべて英語で行う中、生徒たちは必要に迫られて必死で英語を話し、楽しく活動した。
改善・充実策	① ① ・ 小学校での意欲を高めるコミュニケーション中心の学習から、中学校での文の構成を踏まえた4技能を高める学習にしっかりつなげるため、「書く力」にも重点を置いて指導する必要がある。 ・ 幼稚園年少からの英語に親しむ活動は効果がみられるため、引き続きカリキュラム上に位置づけ、継続する。
	② ① ・ 文部科学省が中学校卒業時英検3級程度の学力を身につけさせることを目標としていることから、英検の受験を引き続き推奨すると共に、授業において英語力を高めるよう工夫したい。
	③ ① ・ 非常に効果的な研修であるので、次年度も継続する。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	(2) 〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。 ① 1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業 ② 家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習 ③ ICT支援員配置・活用と教職員研修 ④ ICT教育環境の整備と充実			
重点項目と評価	①	① 主体的・対話的で深い学びの効果的実現と情報活用能力の育成をめざす授業の実施	b	
		② プログラミング教育の推進	b	
	②	① 双方向型情報通信による家庭とのオンライン授業の実施	b	
		② 他校等との交流授業の実施	b	
	③	① ICT環境整備・活用委員会による協議・研修等の実施	b	
		② ICT支援員（GIGAスクールサポーター）の配置と活用	b	
具体的な取組	④	① ICT教育機器・設備のメンテナンスと更新	b	
	①	① ・タブレット端末機の活用、ロイロノートスクールのさらなる活用、メクビット活用による質の高い授業の実施		
		② ・各教科による実践で論理的思考力の育成		
	②	① ・長期休業におけるGoogle works やロイロノートスクールの利用 ・不登校児童へ授業のオンライン配信や健康観察の実施		
		② ・小学校外国語等の授業で、他校とオンライン授業を実施		
	③	① ・活用検討委員会の開催 ・活用委員会主催の先進校の視察研修会実施 ・活用委員会主催の授業研究会実施		
数値目標と数値実績		② ・ICT支援員を週1日ずつ各小・中学校に配置。		
	④	① ・学校からの不具合等の報告対応。		
		項目	数値目標	数値実績

成果・評価	① ① ・ＩＣＴ支援員の指導により、全ての教員がロイロノートスクール、メクビットを使用することができた。ロイロの機能の紹介もあり、児童生徒も授業の中で「共有ノート」を積極的に使えるようになり、協働的な学びを深めることができた。
	② ② ・各教科の中で、考えるための適宜活用・発揮させた。無料アプリを活用したプログラミング学習にも取り組んでいる。
	② ① ・教員のオンラインの技術が向上し、ある小学校においては不登校の児童や欠席した児童に授業を配信したり、健康観察の連絡等を行ったりして、学びの連続性を図ることができた。 ・長期休業においては、Google worksやロイロノートスクールを利用し、健康観察や課題の取組状況の把握ができた。
	② ② ・小学校の外国語授業では、隣町や他地区の小学校とオンラインを活用した授業を展開した。総合的な学習の時間に他県とオンラインによる交流を行い、桑折町の紹介を行った学校もあった。
	③ ① ・年２回（５月と２月）にICT活用検討委員会を開催した。 ・先進校視察として、北塩原村立第一中学校の授業公開に各学校代表８名で参加した。ＩＣＴの活用について研修し、それぞれの学校の授業に活かすことができた。 ・授業研究会として、半田醸芳小学校で開催し、社会科でどのようにＩＣＴを活用するかについて授業公開と事後研究会を行った。多くの教員が参加し、研修を深めることができた。 ② ② ・毎週１回ICT支援員が訪問している。授業の支援はもちろん研修会の講師などを努め、児童生徒のみならず教員のＩＣＴ活用能力の向上に寄与した。 ・年次更新について各学校の更新を担い、スムーズな更新を行うことができた。
改善・充実策	④ ① ・ＩＣＴ支援員等と連携しながら、不具合等には迅速に対応し、授業の妨げにならないように努めた。
	① ② ・プログラミング教育を発展させるために、学習アプリ（ScratchやViscuit等）を積極的に使用することを考えていく。 ③ ① ・次年度も先進校視察と授業研究会を行い、教員のスキルアップを図る。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

重点施策	(3) 〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。 ① 防災・安全教育 ② 持続可能な開発のための教育 ③ 感染症対策も含む健康教育			
重点項目と評価	①	①	防災体制の確立及び日常生活における安全指導の徹底	b
		②	減災の視点に立った実効性ある避難訓練等の実施	b
		③	通園通学指導による交通安全啓発活動の実施	b
		④	東日本大震災の体験等に基づいた安全教育・防災教育・放射線教育の充実	b
	②	①	S D G s（持続可能な開発目標）の達成をめざす教育活動	b
	③	①	学校における感染症対策の徹底	b
		②	正しく理解し、判断・行動できる力の育成	b
		③	健康な生活習慣の実践	b
具体的な取組	①	① ・幼稚園における施設設備の安全点検と遊びの中で行う安全指導 ・小中学校における施設設備の安全点検と避難訓練時の防災体制の確認		
		② ・各学校の災害リスクに応じた避難訓練実施。 ・火災、地震、弾道ミサイル時の避難訓練及び不審者対応訓練の実施と反省、改善		
		③ ・各校において、交通安全教室の実施。 ・桑折町 P T A と連携した自転車のヘルメット着用啓発活動。 ・幼稚園において、第Ⅰ駐車場での立哨指導		
		④ ・各学校で策定する「放射線教育計画」を基に放射線について理解を深める学習の実施。		
	②	①	・小中学校における「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取組	
	③	①	・新型コロナウイルス感染症 5 類移行を踏まえた対策の継続	
		②	・新型コロナウイルス感染症 5 類移行を踏まえた対策の継続	
		③	・『早寝早起き朝ごはん』の呼びかけ	
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	① ふくしまゼロカーボン宣言事業への参加校	5校／5校	5校／5校

成果・評価	<p>① ① ・ヒヤリハットマップを確認することで学級内または戸外の安全な環境への視点が共通となり、危険を察知する力の育成や安全確保に繋がった。</p>
	<p>② ② ・幼稚園・各学校において災害リスクに応じて、避難訓練を行った。水害を想定して避難訓練を行った学校もあった。また、実施後の職員会議で各学年の反省をもとに改善策を考え次の計画に生かし実効性のある訓練に努めた。</p>
	<p>③ ③ ・各校において、交通安全教室を実施するとともに、児童生徒の登校時に立哨指導を行い、交通安全の意識を高め事故防止に努めた。 ・桑折町PTAと連携し自転車のヘルメット着用の啓発活動を行った。 ・幼稚園では、第1駐車場で立哨指導をすることで危険運転の抑止力に繋がっていた。</p>
	<p>④ ④ ・各学校で策定する「放射線教育計画」を基にして、主に学級活動の時間に、各学年の実態に応じて放射線について理解を深める学習を行った。 ・3月11日には、各学校において追悼の集会を行った。</p>
	<p>② ① ・桑折町内の5つのすべての小中学校で、「ふくしまゼロカーボン宣言事業」参加し、節電などに取り組んだ。</p>
	<p>③ ① ・衛生的な環境を保つために教室の換気と机等の消毒を行うとともに、活動に応じて、園児・児童生徒の手指消毒を行った。 ・体調不良の園児・児童・生徒について、早めの対応を行った。</p> <p>② ② ・新型コロナウイルス感染症について正しく理解し、判断・行動できる力を育んだ。 ・感染者(濃厚接触者)に対する偏見・差別が生じないよう人権に配慮した指導を行った。</p> <p>③ ③ ・園児・児童生徒の朝食の摂取率は100%近い。その一方で、品目が少ない園児・児童生徒も見られる。</p>

改善・充実策	<p>① ① ・来年度も今年度同様、安全安心な環境作りに取り組んでいきたい。また、幼稚園では安全対策としてヒヤリハットマップの掲示や書き込みが有効だったため継続したい。</p> <hr/> <p>③ ③ ・中学校の自転車のヘルメットについて、小学校及び桑折町PTAと連携しつつR6年度からのモデルチェンジを図っているところである。</p> <hr/> <p>③ ① ・100%終息したわけではないので、感染状況を踏まえて適切な対応を考え、弾力的に対応していく。</p> <hr/> <p>③ ③ ・スマホ、テレビ、ゲームなどメディアに触れる時間が長い子供ほど学力は低く、体力合計点も低くなっている。よって、引き続き町PTA連絡協議会とも連携を図り、メディアコントロールについて理解を深めていく必要がある。</p>
	担当者自己評価
	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

重点施策	(1) 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子どもたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。			
	① 保育改善・充実に向けた研修会や視察の拡充			
重点項目と評価	①	① 環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実	b	
		② 教職員の資質・専門性の向上	b	
具体的な取組	①	① ・幼児自ら取り組めるような環境の構成と教師のかかわり ・子どもの気付きや試行錯誤を大切にしたい考える過程を重視した保育		
		② ・年齢別保育研究会・園内研修の実施		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	① ・コロナ禍の中、感染症予防をしながら興味関心が持てる環境作りと主体性を重視した援助を心がけた。 ・発達や理解力の差はあるが、一人一人の幼児が持つ良さを引き出し、認めあえるようにかかわることができた。		
		② ・県北ブロック研究協議会公開保育を実施した。テーマを「心豊かにたくましく生きる子ども」～遊びの見取りを手がかりに保育の向上をめざす～とし、研究を進める中で幼児理解を深めることにつながった。		
改善・充実策	①	① ・来年度も保育の質の向上に取り組んでいきたい。		
		② ・来年度は新たに協議主題が発表されることから、テーマの受け止め方を確認し、職員間で共通理解を深めながら研究を進めていく。		
担当者自己評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

重点施策	(2) 〔小中学校との連携〕幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。 ① 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育・授業研究会 ② 幼児・児童・生徒の交流活動			
重点項目と評価	①	① 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施		b
		② 幼稚園・小学校の連携の促進		b
		③ 民設民営による認定こども園との連携による教育の充実		c
	②	① 幼児・児童・生徒の交流活動の実施		b
具体的な取組	①	① ・幼小接続保育研究会の実施		
		② ・「幼保小架け橋プログラム検討委員会」を立ち上げ、さらなる連携を図る。		
		③ ・認定こども園開園に向けた運営内容の確認・協議		
	②	① ・幼保交流会、幼小交流会の実施 ・各小学校ごとに交流会の実施		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	① ・醸芳小学校の校長先生に効果的な幼小接続についてご指導をいただき小学校教育と幼稚園教育の違いや共通点について理解を深めることができた。		
		② ・幼保小架け橋プログラム検討委員会において、令和5年度に各校においてスタートカリキュラムを実施した反省と改善点について話し合った。また、桑折町独自のカリキュラム作成に向けて、先進的な事例を基に検討をおこなった。		
		③ ・認定こども園については、令和6年4月開園を予定していたものの、令和5年度に事業者から建設予定地に多量の地下埋設物が確認されたことにより、建物の構造上、さらには子どもたちの安全を確保するため、土壌改良の必要性が生じたことから、工期が約7カ月遅れるとの申し出があったことから、やむを得ず開園を延期し、令和7年4月の開園に向けて、事業者と運営内容について確認するとともに協議を行った。		

成果・評価	<p>② ① ・保育所や小学校との交流会を目標通り実施した。</p> <p>・新型コロナウイルスが5類に移行し、令和6年度入園予定の保育所児の幼稚園体験活動を実施することができた。年少児とのふれあいや、幼稚園の園舎見学を行えたことで、新入園児が入園を楽しみにすることにつながったと思われる。</p> <p>・幼小交流では事前に職員間で打ち合わせを設けたことで、互いの考えを出し合い、活動につなげることができ効果的だった。</p>
改善・充実策	<p>① ② ・次年度はさらにどのような連携ができるか、それぞれの立場から意見を出し合い、スタートカリキュラムの改善・修正を図る。年2回開催する。（6月・2月）</p>
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

5 家庭への手厚い子育て支援

重点施策	(1) 「経済的支援」「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。 ① 保育所や預かり保育の「待機児童ゼロ」を堅持していくための受け入れ体制の整備 ② 給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与・病児病後児保育利用料助成		
重点項目と評価	①	① 人的・物的な受け入れ体制の維持と充実 ② 乳幼児保育の民設民営による認定こども園への移行 ③ 保育体制の充実	b b b
	②	① 給食費の補助 ② 入園・入学幼児児童生徒への祝い品（制服）支援事業の実施 ③ 児童生徒への就学援助支給 ④ 奨学資金制度の利用促進 ⑤ 在園・在所児の病児・病後児保育利用の支援	a b b b b
具体的な取組	①	① ・計画的な会計年度任用職員募集や人材派遣委託により、保育士等の確保を行い、受け入れ体制の維持と充実を図る。 ② ・県、事業所と連携を密にし、認定こども園建設の補助金に必要な書類の提出や運営内容の確認、職員雇用に向けた協議の実施。 ③ ・預かり・放課後児童保育支援員研修会及び児童館長による巡回指導の実施、特別な支援を必要とする園児・児童に対する保育の充実。	
	②	① ・給食費の補助（幼稚園全額、小中学校半額補助） ② ・翌年度新入学児童生徒、幼稚園入園児および当年度転入学児童生徒へ町内各学校・幼稚園の制服を入学祝いとして支給。特別支援学校進学者には祝金を支給。 ③ ・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を各学期末に支給。 ④ ・桑折町奨学資金についての周知・利用促進の実施。利用しやすいための要件緩和の検討。 ⑤ ・在園・在宅児の病児・病後児保育利用料助成事業の実施	

数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	① ①	待機児童人数	0人	0人
	② ②	幼稚園入園祝い品（制服）支給件数	R4年度実績 59件	R5年度実績 79件
	③	病児・病後児保育利用件数	R4年度実績 2件	R5年度実績 4件
	② ④	奨学資金（総）貸付者数	R4年度実績 29人	R5年度実績 28人
成果・評価	① ①	・保育士等については、人材確保及び保育の充実に努めたことから、待機児童ゼロの堅持ができた。		
	②	・開園は延期になったものの、令和7年4月開園に向けて、県や設置事業所と連携を密にしたことで、認定こども園建設補助金等に必要な書類の手続きを進めることができた。 ・運営のための内容や職員雇用については、もう少し協議が必要である。		
	③	・早期に運営上の課題、子どもや保護者への対応等に対応することができた。 ・研修会等で学んだことを他の支援員に伝達することにより、支援員全体のスキルアップを図るとともに、特別に支援を要する園児・児童への対応等、園児・児童の保育の充実を図った。		
	② ①	・子育て支援策の一環として、給食費の幼稚園児全額町負担、小中学生全額町負担を実施した。		
	②	・小学校：新入学88名・転入学3名、中学校：新入学94名・転入学0名に対し制服支給を行い、家庭の負担軽減を図った。祝金対象の特別支援学校入学者は、該当者がいなかった。		
	③	・要保護・準要保護児童生徒に認定された保護者に対し、学用品費等を援助することで、経済的支援を行い、困窮家庭の児童生徒の就学機会を確保した。		
	④	・奨学資金の新規貸付6件であった。 ・桑折町奨学資金についての周知・利用促進を行った。また、利用しやすいように要件の緩和を行った。		
	⑤	・病児・病後児保育利用料助成事業を行い、保護者の経済的負担の軽減を図った。		

改善・充実策	① ① ・待機児童ゼロの堅持を図るため、人材確保の及び保育の充実に努める。
	② ② ・「認定こども園」開園に向け、引き続き県と設置事業所と連携を図っていく。 ・事業者と連携し、早急に教育・保育内容の確認と、職員雇用に向けた協議を実施する。
	② ① ・食材費が値上がりしている中であっても、子育て支援策の一環として、給食費の全額無償化を継続していく必要がある。
	⑤ ⑤ ・在園・在所児の病児・病後児保育利用助成事業の申込件数が少ないため、事業内容の周知に努める。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

5 家庭への手厚い子育て支援

重点施策	(2) 〔家庭教育支援〕 家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。 ① 家庭の教育力向上支援			
重点項目と評価	①	① 家庭教育についての保護者への啓発		b
		② 情報提供や相談体制整備		b
		③ 子育て支援施策についての情報発信の強化		b
具体的な取組	①	① ・『頭のよい子に育てるために今すぐ絶対やるべきこと』(川島隆太博士著)を活用した家庭の教育力向上を図る。 ・園長講話、学級懇談、家庭教育学級の実施		
		② ・個別懇談や必要に応じた教育相談の実施 ・幼稚園での『園生活の様子』の配布(クラスの様子、個別の様子)及び園生活の様子を知らせるホームページの更新		
		③ ・町ホームページを活用し、認定こども園建設や運営内容に伴う保護者等への周知や、園児・児童募集等を広報等で周知。		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 本の配付件数	31件 (前年度実績)	26件
	①	② 幼稚園評価『幼稚園での様子を伝えているか』	70%以上	96.0%
		② 幼稚園評価『相談に親身になって対応してくれているか』	70%以上	95.5%
		② 園での町ホームページ更新	幼稚園稼働日 90%以上	幼稚園稼働日 99%
成果・評価	①	① ・妊婦全戸訪問の際に川島隆太先生の本を配付し、家庭の教育力向上に努めた。(配付については、第一子、町転入後に初めて出産する場合のみ) ・幼稚園において、4月に学級懇談、4月と6月に園長講話を実施した。		
		② ・家庭に対しⅠ期からⅤ期に分けて期毎にクラスの様子や個別の様子についてファイルに綴り知らせた。 ・HPを利用し、幼稚園で過ごしている園児の様子を知らせた。		
		③ ・認定こども園開園延期や運営内容等について、町ホームページに掲載し、町民や保護者等への情報発信に努めた。		

改善・充実策	<p>① ① ・感染症状況を見ながら実施したい。</p> <hr/> <p>② ・家庭に対する園生活の様子ファイルや園児の様子についてのHP更新については、継続する。</p>
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

6 小中学校のあり方の検討

重点施策	(1) 〔少子化への対応〕小学校が小規模化している現状を踏まえ、今後のあるべき姿を検討し、その実現をめざす。 ① 学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析 ② 小学校統合についての様々な観点からの検討		
重点項目と評価	①	① 小学校児童数の現状と今後の推移についての把握	b
		② 学級編制の見通しについての分析	b
	②	① 教育委員会のこれまでの方針の確認	b
		② 小学校統合についての計画的・総合的な議論の推進	b
具体的な取組	①	① ・現状と今後の推移についての調査	
		② ・今後の学級編制見通し分析	
	②	② ・協議の場の設置検討	
数値目標と数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	・児童数の現状と今後の推移の把握および学級編制の見通し分析を行い、今後の推移について把握検討を行った。	
	②	・小学校統合を含む今後の見通をした場合において学校現場での検討が必要であることから、園長・校長を委員とする「桑折町小中学校のあり方調査・研究委員会」を設置し、調査・研究を行い、令和6年1月に報告書を取りまとめました。	
改善・充実策	②	・次年度において、学識経験者、保護者、地域住民代表、学校教職員代表を委員とした「桑折町小・中学校のあり方検討委員会」を設置し、総合的な検討を行う。	
担当者自己評価	B	良 い （目標の通り達成した）	
教育委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）	
第三者評価 委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）	

6 小中学校のあり方の検討

重点施策	(2) 「学校運営の改善」今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。 ① 小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討 ② 学校における働き方改革の推進			
重点項目と評価	①	①	小中一貫教育の導入の検討	b
		②	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入の検討	b
		③	学校支援ボランティアの活用	b
	②	①	桑折町学校行事等検討委員会よりの提言を受けての対策の実施	b
		②	「桑折町立学校に勤務する教育職員が業務を行う時間の上限に関する規則」の趣旨の実現に向けた取組	b
具体的な取組	①	①	・小中一貫教育の導入検討	
		②	・コミュニティ・スクールの導入検討	
	②	①	・学校での陸上競技大会を町社会体育行事として移行	
		②	・校務支援システムの利活用	
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	・6（1）「少子化への対応」での現状と今後の推移を調査分析することにより、今後検討していく。 ・、園長・校長を委員とする「桑折町小中学校のあり方調査・研究委員会」を設置し、調査・研究を行い、令和6年1月に報告書を取りまとめました。		
		②	①	・学校で行われていた陸上競技大会については、新「桑折町小学生陸上競技大会」として、令和4年度より、町教育委員会を主催としたが、今年度は猛暑のため中止となった。
			②	・校務支援システムの利活用により、勤務時間の把握とデジタル化による業務の効率化による教職員の勤務軽減を行った。
改善・充実策				
担当者自己評価	B	良	い	（目標の通り達成した）
教育委員評価	B	良	い	（目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B	良	い	（目標の通り達成した）

7 教育施設・設備の充実

重点施策	(1) 「学校施設」安全・安心で子どもたちの学びを支える良好な教育環境の維持・向上の方策を確立し、その実現をめざす。 ① 学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成		
重点項目と評価	①	① 安全・安心な教育環境の確保と施設・設備の充実	b
		② 学校教育施設・設備の維持管理と今後の点検・整備のあり方についての検討	b
具体的な取組	① ① ・施設の老朽化による修繕については年次計画的に実施 ② ・学校施設等長寿命化計画の検討・策定		
数値目標と数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	① ① ・小・中学校における施設の修繕工事について、次のとおり実施した。 ◎ 主な修繕工事等 【醸芳小学校】防排煙設備用バッテリー更新工事、受変電設備改修工事 【半田醸芳小学校】2階低学年女子トイレ洋式化工事 【伊達崎小学校】特別教室LED照明器具交換工事、給食配膳室雨樋設置工事 【醸芳中学校】消防用設備等更新工事、駐車場路面補修工事		
	② ・長寿命化計画策定に向けて、過去の維持費の積み上げ及び今後の見通し等について調査・分析を行った。 ・小学校のあり方検討委員会や町公共施設等総合管理計画と連携しながら実施する。		
改善・充実策	① ・施設について、築年数が古く、老朽化が進んでいることから、施設の維持については、様々な検討が必要である。		
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）		
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）		

7 教育施設・設備の充実

重点施策	(1) 〔給食センター〕安全・安心でおいしい給食を安定供給するとともに、食育および地産地消の拠点としての機能を果たす施設としてのあり方を検討し、その実現をめざす。 ① 給食センター施設・設備の計画的な維持・管理・整備 ② 今後の管理・運営のあり方の検討		
重点項目と評価	①	① 施設・設備の計画的な維持・管理・整備の推進	b
	②	① 給食センターの在り方の見直し	c
具体的な取組	①	① ・設備更新計画に基づく機器類の更新	
	②	① ・給食センターのあり方についての研究	
数値目標と数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	① ・更新計画に基づき、令和5年度は、食缶類洗浄機の更新を行った。経年劣化等による不具合等が解消され、安全に給食を提供することができた。また、耐用年数を経過した調理室の空調設備についても更新工事を行い、安定した冷暖房設備を整えることができた。	
	②	① ・給食センターの管理運営について、現在、調理・配送業務を民間に委託し、施設の管理運営は直営となっている。センターのあり方について、具体的な検討はできなかったが、近隣の状況把握等に努めた。	
改善・充実策	①	① ・令和5年度から8年度の設備機器更新計画に基づいて、機器類の更新を図りながら施設環境を整え、安全安心な給食の提供に努める。	
	②	① ・現時点においては、機器類を更新しながら施設の維持管理に努める。また、近隣自治体や先進事例等の情報収集に努める。	
担当者自己評価	B	良 い （目標の通り達成した）	
教育委員評価	A	大変良 い （目標を上回って達成した）	
第三者評価 委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）	

項 目	評 価			
	自己 評価	教育委員 評価	社会教育委員 評価 文化財保護審 議委員評価	第三者評価 委員評価
1 生涯学習活動の推進				
(1) 生涯学習の推進	A	A	A	A
(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供	B	B	B	A
(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励	C	C	C	B
(4) 心を豊かにする読書活動の充実	A	A	A	A
(5) 芸術・文化の振興	A	A	A	A
(6) 公民館施設等の管理運営	B	B	B	B
(7) 多世代交流及び多文化交流の推進	B	B	B	B
2 社会体育・生涯スポーツの推進				
(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会 体育の推進	B	B	B	B
(2) スポーツ団体等の支援	B	B	B	B
(3) 体育施設等の充実	C	B	B	B
3 歴史まちづくりの推進				
(1) 歴史的風致維持向上計画の推進	B	B	B	B
(2) 文化財の保護・活用の推進	B	B	B	A
(3) 旧伊達郡役所の復旧と役割の見直し	B	B	B	B

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(1) 生涯学習の推進			
	①	「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」の策定		
	②	生涯学習推進体制の充実		
	③	生涯学習社会実現のため、情報提供と町民ニーズに対応する事業		
	④	生涯学習に関するニーズの把握		
重点項目 と評価	①	① 「桑折町生涯学習推進基本計画（第3次）」の策定	a	
	②	① 「生涯学習推進本部会議」「生涯学習推進会議」の開催	a	
	③	① 現代的諸課題に対する学習の充実	a	
	④	① 生涯学習に関するニーズの把握	b	
具体的な取組	①	① ・「生涯学習推進基本計画（第3次）」の策定		
	②	① ・「生涯学習推進本部会議」「生涯学習推進会議」の開催		
	③	① ・スマホ講座、健康や防災、芸術鑑賞講座等の開催		
	④	① ・成人講座終了後の参加者アンケートの実施		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	③ ①	成人講座開催数	29講座 (前年度実績)	37講座
成果・評価	①	① ・「生涯学習推進基本計画（第3次）」については、策定支援業務により民間の知見を活用するとともに、桜の聖母短大の三瓶教授をアドバイザーに委嘱し、取り巻く情勢や課題等について助言を受ける体制を整備し策定業務に取り組んだ。その結果、当初の予定どおり令和5年12月に策定。策定後は計画書及び概要版を作成した。		
	②	① ・計画（第3次）の策定にあたり、町長を本部長とする「生涯学習推進本部」を5回開催し、全庁的取組みとして共通認識を図るとともに、関係団体や学識者等で構成する「生涯学習推進会議」を4回開催し、町民や三瓶アドバイザーの意見を参考に、基本構想等の整理統合を図ることができた。		
	③	① ・公民館事業立案にあたって、スマホ・タブレット講座、健康や防災、大人の社会科見学等、魅力ある内容の充実を図った結果、講座数を（前年度29講座→37講座に）増やすことができた。		
	④	① ・成人講座開催の都度、参加者アンケートを取りながら、内容の量・質の満足度を伺い、次回講座開催の参考とすることができた。		

改善・充実策	② ① ・策定した計画の進捗管理を行うため、個々の具体的な各課「事業計画」を作成する。 ・第3次計画の基本構想、“学びを生かしたまちづくりの推進”にあるように、町民が学びの成果を各分野で生かし、まちづくりに繋げるよう、全庁的な関連事業の推進を図っていく。
	③ ① ・引き続きデジタル活用（スマホ講座、SNS活用による情報発信等）の視点を重視していく。
担当者自己評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
社会教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供			
	① 中央公民館を拠点として、知識や技能を適切に提供することができるようライフステージに応じた内容の充実			
重点項目と評価	①	① 公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施（成人講座・こおりキッズスクールの開催）	a	
		② 親子教室等事業への開催支援（講師謝礼の助成）	c	
具体的な取組	①	① ・公民館運営推進員を中心とした公民館事業の実施（こおりキッズスクール・成人講座等の運営）		
		② ・親子教室等事業への開催支援（講師謝礼の助成）		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① こおりキッズスクールの登録人数	1 1 6 名 （前年度実績）	2 2 3 名
		② 成人講座参加者延べ人数	5 2 4 名 （前年度実績）	8 0 3 名
成果・評価	①	① ・公民館事業については、中央公民館長、公民館運営推進員、生涯学習係員と四半期ごとに事業内容の検討を行い、向こう3か月の講座内容を記載した募集チラシを作成して参加者を募った。 コロナが五類に移行したことにより、バスでのお出かけ企画や料理教室、交流事業（スポーツ大会）などを復活させた。前年度に比べ、大幅に参加者が増え、内容面でも好評を得られた。 ■こおりキッズスクール 小学4～6年生 13名登録 バスでお出かけ企画（小鳥の森）、星空観察、クリスマス飾り、料理教室（カステラ）等 15講座実施 のべ223名参加 （前年度：講座数 11、参加者のべ 116名） ■成人講座（非登録制・オープン講座） 成人講座として、美術館・音楽鑑賞、ボッチャ大会、e-スポーツ、バスツアー（震災遺構見学、町内工場見学）等 37講座実施のべ803名参加 （前年度：講座数 29、参加者のべ 524名）		
		② ・親子教室等の事業については、コロナ禍以降、該当機関（保育所・幼稚園・小・中学校及び各PTA等）の利用はなかった。		

改善・充実策	<p>① ① ・多くの町民に学ぶ機会を提供できるよう、ライフステージごとの興味関心について把握し、他自治体等の事例等も参考にしながら、事業内容を検討していく必要がある。</p> <hr/> <p>② ② ・親子教室等の支援（講師謝礼の助成）について、保育所・幼稚園・小・中学校及び各PTA等へ情報提供し、活用促進に努める必要がある。</p>
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
社会教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励 ① 家庭、学校、地域及び社会教育に関する団体等との連携及び地域の教育力を活用し青少年の育成推進			
重点項目 と評価	①	① 桑折町青少年育成町民会議事業の実施		c
		② 立志式の開催		b
		③ 社会教育団体への活動支援		b
具体的な取組	①	① ・桑折町青少年育成町民会議事業の実施		
		② ・中学2年生を対象とした立志式の開催		
		③ ・社会教育団体（ボーイスカウト）への支援		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
成果・評価	①	① ・町民会議大会を4年ぶりに開催し、令和5年度の計画や努力事項等を決定し、青少年のメディア依存の危険性とその対応方法をテーマに、県立医科大学教授の横山浩之先生を講師として記念講演を開いた。また、各地区部会活動に対する支援を行った。また、醸芳中学校2年生が少年の主張に応募し、県大会において優秀賞を受賞した。		
		② ・2月2日に立志式を開催し、醸芳中学校2年生81名参加。中学2年生に自他ともに社会の一員としての自覚や誇りを持たせることを目的とし開催した。今年度は4年ぶりに保護者も同席した形となり、併せて銀の森治療院院長渡邊健先生を講師に、『「心」と「頭」と「体」を大切に』と題して記念講演を開催した。		
		③ ・日頃の生活では味わえない体験や精神鍛錬等の活動について、社会教育団体（ボーイスカウト）への補助金交付により支援した。		
改善・充実策	①	① ・今年度は4年ぶりに町民会議大会を開催することができたが、前回実施の令和元年度と比較して、参加者数が減少した。今後は、関心の高いテーマや講師等について調査・研究するとともに、幅広く町民への声掛けを行うなど周知方法の改善を図り、参加者の増加を図っていく。一方で、各地区の役員選出など、活動の継続が難しくなっているとの声もあり、代表者を集め、今後の在り方について検討する必要がある。		
		② ・今年度は4年ぶりに講演会を開くことができた。今後も継続して中学校と協議し、保護者も含めた青少年育成につなげる必要がある。		
		③ ・社会教育団体の活動支援を継続する必要がある。		

担当者自己評価	C やや悪い （目標を少し下回った）
教育委員評価	C やや悪い （目標を少し下回った）
社会教育委員評価	C やや悪い （目標を少し下回った）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(4) 心を豊かにする読書活動の充実 ① 遊学館「よも～よ」の読書環境・学習環境の充実 ② 町民への図書の紹介や幼・小・中学校との連携と図書の有効活用・読書活動の充実			
重点項目と評価	①	① 遊学館「よも～よ」における魅力ある企画運営		a
	②	① 桑折町読書活動推進計画に基づく学校図書室との連携、図書ネットワークの推進		b
		② ブックススタート事業の実施		a
		③ 中央公民館主催「おはなしの会」の実施		a
具体的な取組	①	① 遊学館「よも～よ」の利用向上のための魅力ある企画の実施		
	②	① 遊学館「よも～よ」と学校図書との連携		
		② ブックススタート事業（乳幼児健診時）の実施		
		③ 中央公民館主催「おはなしの会」（月1回）の実施		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 蔵書の貸出冊数（一般利用者）	年間16,653冊（前年度実績）	20,072冊
	②	① 蔵書の貸出冊数（教育施設への団体貸出）	年間1,407冊（前年度実績）	1,580冊
成果・評価	①	① ・こどもの読書週間（スタンプを貯めてどうぶつバッジをプレゼント）や大人の読書週間（よみくじ）、その他季節にちなんだ企画（本の福袋）などのイベントを定期的を開催し、来館者数が8,130人に増えた（前年度6,873人）。		
	②	① ・各小中学校・子どもクラブ（睦合・伊達崎・半田）によも～よの蔵書（1,580冊）を貸し出すなどの学校図書室との連携を図り、読書環境の充実を図ることができた（昨年度1,407冊）。		
		② ・7か月健診の乳児を対象としたブックススタート事業では、ボランティア団体「ファミリー文庫」（3団体）による読み聞かせと絵本の進呈（対象者40名）を行い、親子で絵本に親しむ機会を設けることができた。		
		③ ・月1回程度、子育て支援センターとの連携も図りながら、中央公民館主催のおはなしの会を実施し、本の出張貸出も行った。よも～よでのイベント周知なども行い、本に関心をもってもらえるようPRに努めることができた。		

改善・充実策	② ② ・読み聞かせボランティア団体のうち1団体が、メンバーの高齢化等により、令和5年度で活動を辞めることになった。新たな団体の立ち上げに向け、読み聞かせ活動に興味を持ってもらえるよう、町民を対象とした読み聞かせの講座や見学会等を開催し、新団体「ぶろっこりー」の立ち上げに繋げることができた。
担当者自己評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
社会教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(5) 芸術・文化の振興			
	① 芸術鑑賞会や文化講演会の開催			
	② 町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援			
重点項目と評価	①	① 芸術鑑賞会や文化講演会の開催	a	
	②	① 文化団体連絡協議会活動支援	a	
		② 高齢者作品展の実施	b	
具体的な取組	①	① ・芸術鑑賞会や文化講演会の開催		
	②	① ・文化団体連絡協議会活動に対しての補助金交付		
		② ・高齢者作品展の開催		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	② ①	文化祭への来場者数	800人 (前年度実績)	1,200人
成果・評価	①	① ・成人講座にて、町外で開催している芸術鑑賞会（福島県立美術館での特別展、音楽堂でのクラシックコンサート）へ訪問する講座や、ジャズ演奏を趣味に町内で活動している方々によるコンサートなど、生の芸術に触れる機会をつくり、参加者からも大変好評だった。		
	②	① ・文化団体連絡協議会に対して50万円の補助金を交付し活動を支援した。令和5年度の文化祭は、コロナが五類に移行したため、幼稚園や小中学校の子ども達の作品展示数を増やした。また、お楽しみ抽選会も復活させ、来場者数が約1.5倍増えた。		
		② ・令和5年度も、文化祭の会場で開催し、高齢者の生きがい・やりがいの場を提供することができた。		
改善・充実策	①	① ・引き続き鑑賞ツアーを企画しつつ、町独自の講演会等も企画できるよう、歴史文化分野と連携しながら、著名人等による文化講演会の開催や旧伊達郡役所等を活用した芸術鑑賞会を実施できるよう検討していく。		
	②	① ・文化団体連絡協議会に加盟する団体会員の高齢化が見えてきており、継続できない団体等も出てきている。町民が主体的に芸術文化活動を継続して行えるよう、助成制度を見直すなど、活動に対する柔軟な支援の方法を検討する必要がある。		
担当者自己評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		
教育委員評価	A	大変良い（目標を上回って達成した）		

社会教育委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）
第三者評価 委員評価	A 大変良い （目標を上回って達成した）

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(6) 公民館施設等の管理運営 ① 各施設の計画的な維持補修 ② 地区公民館の管理運営			
重点項目 と評価	①	① 各施設の計画的な維持補修と定期点検等		b
	②	① 地区公民館の管理運営(シルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理)		b
具体的な取組	①	① ・各施設等の現状把握と適正な維持補修及び定期点検等の実施		
	②	① ・地区公民館のシルバー人材センター派遣による受付・清掃等施設管理の実施		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	②	① 各地区公民館 施設利用者数	15,000人 (前年度実績)	18,613人
成果・評価	①	① ・前年度確認した各施設の経年劣化や耐用年数等の状況をもとに、桑折公民館大ホールのエアコンなど、計画的な設備の更新を実施できた。 ・施設の電気設備や消防設備などの定期点検を行い、利便性向上に努めることができた。		
	②	① ・地区公民館については、貸館として利用してもらうことが多くなってきており、利用者が安心して使用できるよう管理人派遣による施設の維持管理を効率よく行うことができた。		
改善・充実策	①	① ・施設の建物と設備に関しては、適正に更新や修繕等が図られるよう計画し、予算を確保していく必要がある。		
	②	① ・地区公民館は、地域住民が使いやすいものにしていけるよう、住民自治協議会と運営方法等について検討していく必要がある。		
担当者自己評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
社会教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)

1 生涯学習活動の推進

重点施策	(7) 多世代交流及び多文化交流の推進 ① 地域学校協働活動事業 ② ボランティア人材の発掘 ③ 多世代交流の機会創出 ④ 多文化に関する学習機会の提供			
重点項目 と評価	①	① 地域学校協働活動事業の充実		a
	②	① ボランティア人材の確保		b
	③	① 多世代交流の機会の提供		b
	④	① 多文化交流の機会の提供		b
具体的な取組	①	① ・地域学校協働活動推進員のコーディネートによる学校支援の充実		
	②	① ・ボランティア人材の把握と活用		
	③	① ・多世代による交流の場の提供		
	④	① ・国際理解を目的とした外国人との交流の場の提供		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	① ①	学校支援の回数	85件 (前年度実績)	103件
成果・評価	①	① ・幼稚園や各小学校からの依頼により、推進員のコーディネートで各分野のボランティアを活用して学校支援を行った。地域人材を活用することで子どもたちの興味関心を深めることができた。		
	②	① ・2年毎に更新している人材バンク登録者名簿をもとに、各分野で学校支援等に協力いただくことができた。 ・中学校部活動の地域移行に向け、指導者の人材バンク作成に向けた調査を実施した。その中で、バドミントン部に外部指導者として1名配置した。		
	③	① ・青少年育成町民会議の部会活動やボーイスカウト等への補助金交付により、多世代での事業展開を支援した。また、新たな取り組みとして、子どもから大人まで参加したeスポーツ体験会を行い、多世代交流を図った。		
	④	① ・公民館講座（キッズスクール）において、福島大学の留学生と子どもたちの交流の場を企画した。令和5年度は感染症の流行により、実施を中止せざるを得なかった。		

改善・充実策	② ① ・本の読み聞かせを行うボランティア団体が、メンバーの高齢化等により活動継続が難しくなっているとの意見がある。今後、町民を対象とした読み聞かせの講座等を実施しながら、人材確保・育成等に努めていかなければならない。 ・休日の中学校部活動の地域移行(令和8年まで)に向け、継続して人材の募集に取り組んでいく。その際、県や近隣市町とも連携して進めていく。
	③ ① ・青少年育成町民会議活動やボーイスカウト等への支援を継続し、また、公民館講座等においても、引き続きeスポーツなど多世代での交流を目的とした事業展開を図る必要がある。
	④ ① ・子どもの講座だけではなく、成人講座等においても、ALTの活用などを検討しながら、外国人との交流の機会を提供し、国際理解を深める必要がある。
担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
社会教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(1) 健康・体力づくりを目指す生涯スポーツ・社会体育の推進				
	① 健康・体力づくりのための事業展開				
	② イコーゼ！の効率・効果的な利活用				
重点項目 と評価	①	①	小学生陸上競技大会の運営	b	
		②	運動教室の実施	b	
		③	スポーツ・健康講演会の開催	b	
	②	①	年代に応じた各種水泳教室の実施	b	
		②	小中学生水泳授業、町小学校水泳大会の開催	b	
		③	屋内遊び場の活用コンテンツの提供	b	
具体的な取組	①	①	・小学生陸上競技大会の運営		
		②	・運動教室の開催		
		③	・著名人等によるスポーツ・健康講演会の開催		
	②	①	・園児・小学生・大人の水泳教室の開催		
		②	・学校水泳授業の実施・支援、水泳記録会の開催		
		③	・屋内遊び場利活用促進のためのイベント開催		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績	
	①	①	小学生陸上競技大会参加率	80%	中止
成果・評価	①	①	・令和4年度に初めて社会体育としての小学生陸上競技大会を開催し、運営に対する意見等を聴取した。それらを踏まえ、令和5年度も、校長、PTA、地域団体から構成する実行委員会を組織し、実施する予定であったが、当初大会日は天候不良、予備日は熱中症の危険性が非常に高いことから中止の判断に至った。		
		②	・保健師によるインボディ測定と健康相談等を行いながら、有酸素運動と筋力トレーニングを基本とした運動教室を開催し、年間を通じて運動機会を提供することができた。		
		③	・9/3に講演会と陸上教室を開催し、元オリンピック(田端健児氏)からの講話と実践を行い、直に指導を受けられることもあって、町民の健康意識を高めることができた。		
	②	①	・各年代ごとの水泳教室を開催し、プールに親しみながらの泳力向上に努めた。特に幼稚園児の水慣れ教室は毎回定員に達し、プールに対する関心度の高さが伺えた。		

成果・評価	<p>② ② ・6月～9月において、学校水泳授業を開催し、教員のサポートとして水泳インストラクターや監視員を配置しながら安全に行うことができた。また、学校ごとの水泳記録会も開催し、子どもたちの泳力向上につなげることができた。</p> <p>③ ・被災者支援の補助金を活用し、屋内遊び場の利活用促進につなげるため、親子で楽しめるイベントを2/25に開催し、音楽やダンスで体を動かしながら楽しんでもらうことができた。</p>
改善・充実策	<p>① ① ・運営に携わった方々の意見を参考とし、子どもたちの体力向上のため、参加は強制ではないものの、全員が自主的に参加できるよう、開催時期、運営の方法、競技種目等を改めて検討し、実施する。</p> <p>② ② ・引き続き「こおり健康学会」(担当：健康福祉課)と連携を図りながら、町民の体力向上につなげられるよう、開催方法を工夫していく必要がある。</p> <p>③ ③ ・著名人による事業展開は単発となってしまうことから、町民が継続して実践できる事業展開を検討する必要がある。</p> <p>② ① ・屋内温水プールの活用促進を図るためにも、習熟度で分けたコースの追加や、既存の水泳教室とは異なるプールを活用した運動教室等(大人向けのアクアビクスなど)を検討する必要がある。</p> <p>② ② ・限られた時間の中で子どもたちの泳力向上につなげられるよう、継続して支援していく必要がある。</p> <p>③ ③ ・補助金が令和5年度で終了するため、限られた財源の中でも親子で楽しむ機会を提供できるよう工夫しながら、遊び場の遊具充実など利活用促進を図る必要がある。</p>
担当者自己評価	B 良 い (目標の通り達成した)
教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
社会教育委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)
第三者評価 委員評価	B 良 い (目標の通り達成した)

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(2) スポーツ団体等の支援		
	① 各種スポーツ団体への活動支援		
重点項目 と評価	①	① 総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への支援	b
		② スポーツ協会への支援	b
具体的な取組	①	① ・総合型地域スポーツクラブ「マルベリーこおり」への補助金交付などによる活動支援	
		② ・スポーツ協会への補助金交付などによる活動支援	
数値目標と 数値実績		項目	数値目標
			数値実績
成果・評価	①	① ・マルベリーこおりへ補助金を交付しながら運営の支援を行った。地域での運動機会を提供する上で、福島県沖地震により伊達崎小学校が全く使えなかったことが運営の大きな痛手となったが、体育館修繕完了後は参加者が大きく増加し、会費収入の増につながった。また、毎月1回のプログラム部会に参加し、運営上の支援を行った。	
		② ・スポーツ協会へ補助金を交付しながら運営の支援を行った。アフターコロナを迎え、コロナ禍で弱まった組織力を完全に戻すことはできなかったが、昨年に続きスポーツフェスティバル(加盟団体ごと)を開催し、町民のスポーツの機会を提供することができた。また、事務局として参画し、運営上の支援を行った。	
改善・充実策	①	① ・アフターコロナにおける継続した町民スポーツの機会を提供できるよう、事業の面で当該団体と連携を強化するとともに、自主的活動を支援していく必要がある。	
		② ・コロナ禍で弱まった各加盟団体の組織力を改善し、継続した町民スポーツの機会を提供できるよう、自主的活動を支援していく必要がある。	
担当者自己評価	B	良 い (目標の通り達成した)	
教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)	
社会教育委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)	
第三者評価 委員評価	B	良 い (目標の通り達成した)	

2 社会体育・生涯スポーツの推進

重点施策	(3) 体育施設等の充実			
	① 体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討			
	② 経年劣化に伴う計画的な維持補修			
重点項目 と評価	①	① 体育施設の利用環境の向上と効果的な利活用	c	
	②	① 体育施設の計画的な維持補修及び管理	b	
具体的な取組	①	① ・体育施設の使用料等の検討		
	②	① ・体育施設の計画的な維持補修及び管理		
数値目標と 数値実績		項目	今年度実績	昨年度実績
	①	① 体育施設の利用者数	59,480人 (前年度実績)	70,562人
成果・評価	①	① ・平成25年～継続している震災減免措置、昨今の電力料金高騰、旧態依然の料金体系等、使用料の見直しについて検討を進めるべきであったが、利用の仕方を整理するにとどまり、使用料改定までに至らなかった。 ・新型コロナウイルス感染症五類移行に伴う行動制限が解除されたことで、運動・水泳教室等を積極的に開催した結果、イコーゼを中心に利用者数が前年度より伸びた。		
	②	① 下記の件に関し、計画どおり取り組むことができた。 ・クラブハウス浄化槽破損に伴う撤去 ・イコーゼ！施設の電力自家消費に向けた再エネ設備導入調査 ・テニスコート照明のLED化		
改善・充実策	①	① ・使用料については、近隣市町との比較や課題等の洗い出しを行い、効率的、効果的に利用してもらえるよう受益者負担のあり方について検討していく。		
	②	① ・施設の経年劣化による修繕等については、引き続き、優先順位をつけ、時期を逃すことなく予算化していく。		
担当者自己評価	C	やや悪い（目標を少し下回った）		
教育委員評価	B	良 い（目標の通り達成した）		
社会教育委員評価	B	良 い（目標の通り達成した）		
第三者評価 委員評価	B	良 い（目標の通り達成した）		

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(1) 歴史的風致維持向上計画の推進			
	① 歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進			
	② 歴史案内人育成と体制の充実			
	③ ふるさと教育の推進			
重点項目 と評価	①	① 歴史的風致維持向上計画の見直し	b	
		② 文化財及び歴史的遺産の保存と活用	b	
		③ 歴史的文化の普及啓発	b	
	②	① 歴史案内人育成と活用	a	
	③	① ふるさと教育の推進	a	
具体的な取組	①	① ・桑折町歴史的風致向上計画推進協議会の開催		
		② ・旧伊達郡役所活用事業の開催		
	②	① ・歴史案内人勉強会の開催と歴史案内人活動展開		
	③	① ・小学校総合学習での郷土学習実施及びこども歴史案内人育成		
数値目標と 数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 外部有識者会議の開催回数	2回	1回
		② 国登録有形文化財登録数	2件	2件
	②	① 歴史案内人講座勉強会回数	4回	4回
	③	① こども歴史案内人人数	10人	10人
成果・評価	①	① ・歴史的風致維持向上計画については、庁内推進会議で令和4年度の推進状況、5年度の事業計画、さらに計画変更について議論し、外部有識者による推進協議会を開き、歴史的建造物修景事業に屋外広告物の景観に配慮した修景事業を統合するなどの事業変更の了承を得た。		
		② ・栗花家住宅、無能寺山門を歴史的建造物として、国の登録有形文化財として初めて登録され、保存・活用を図る基礎ができた。		
	②	① ・歴史案内人勉強会を開催し、町の歴史を学習するとともに、他自治体の史跡や取組みについて学び、組織の充実と案内の質の向上を図った。		
	③	① ・こども歴史案内人育成講座を開催し、町内小学6年生10人が郷土学習として旧伊達郡役所について学習した。参加した児童は、こども歴史案内人として認定し、旧伊達郡役所・誕生祭において発表・案内を行った。		

改善・充実策	① ① ・歴史的建造物について、文化庁の登録有形文化財制度を活用した保存と歴史的景観形成を図る。
	② ② ・桑折西山城を守る会、桑折町文化財保存会等との連携により、文化財保存・活用事業の充実を図る。
	② ① ・歴史案内人勉強会、育成講座を開催し、さらなる体制の増強を図る。
	③ ① ・小中学校の郷土学習に積極的に取り組み、こども歴史案内人育成事業を継続することで歴史遺産を未来に継承する裾野を広げる。
担当者自己評価	B 良 い （目標の通り達成した）
教育委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
文化財保護審議委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）
第三者評価 委員評価	B 良 い （目標の通り達成した）

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(2) 文化財の保護・活用の推進 ① 史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり			
重点項目と評価	①	① 史跡桑折西山城跡の保存団体の活動支援		a
		② 史跡桑折西山城跡の維持管理		a
		③ 史跡桑折西山城跡の案内体制づくり		b
具体的な取組	①	① ・桑折西山城を守る会の補助金による支援		
		② ・桑折西山城を守る会との協働による草刈等史跡の維持管理		
		③ ・歴史案内人の充実による案内体制づくり		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 桑折西山城跡来場者数	2,000人	3,360人
		② 桑折西山城を守る会主催による草刈ボランティア開催	2回	2回
成果・評価	①	① ・桑折西山城を守る会へ補助金を交付し、活動を支援した。同会と町が協力し、「講演会」「バスツアー」を開催することで、県内外からも多くの来場者があった。		
		② ・桑折西山城を守る会と町との協働により桑折西山城草刈ボランティアを開催し、町有の史跡の維持・管理を行った。		
		③ ・大かや園の桑折西山城跡ガイダンス施設への誘導案内板の整備を行った。		
改善・充実策	①	① ・桑折西山城を守る会の組織の充実を図り、町との協働による史跡の保存と活用を推進する。		
		② ・桑折西山城跡の草刈について、年2回の草刈ボランティアの他、年間で城跡を維持管理できる団体内での有償ボランティアなどの方法を検討していく。		
担当者自己評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
教育委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
文化財保護審議委員評価	B	良	い	(目標の通り達成した)
第三者評価委員評価	A	大変良		(目標を上回って達成した)

3 歴史まちづくりの推進

重点施策	(3) 旧伊達郡役所の復旧と役割の見直し ① 旧伊達郡役所保存と活用の推進 ② 旧種徳美術館収蔵美術品及び歴史・考古資料の保存・活用のあり方検討			
重点項目と評価	①	① 旧伊達郡役所保存と活用の推進		a
	②	① 旧種徳美術館収蔵美術品及び歴史・考古資料の保存・活用のあり方検討		b
具体的な取組	①	① ・旧伊達郡役所開庁140周年記念事業等の実施		
	②	① ・収蔵美術品及び歴史・考古資料展示事業の実施		
数値目標と数値実績		項目	数値目標	数値実績
	①	① 旧伊達郡役所の来館者数 (140周年事業による来館者も含む)	6,740人 (前年度実績)	9,508人
成果・評価	①	① ・郡役所開庁140周年記念事業（誕生祭及び企画展など）においては、現地における来館者数延べ5,044人、SNS等閲覧者数505,131人と、旧伊達郡役所来館者数増加並びに認知度向上につながった。		
	②	① ・美術品及び資料展示事業としてオンライン美術館や、太田良平作品展、昆虫展等の実施により、本町の文化振興に寄与した。		
改善・充実策	①	① ・イベントの実施による効果を持続させるため、引き続き旧伊達郡役所を活用した事業について実施する。		
	②	① ・収蔵美術品及び歴史・考古資料の利活用手法に関して、オンライン美術館の充実や移動・巡回展など、さらなる検討を行う。		
担当者自己評価	B	良 い （目標の通り達成した）		
教育委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）		
文化財保護審議委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）		
第三者評価委員評価	B	良 い （目標の通り達成した）		

第3 教育委員会の校長に委任する事務の管理 及び執行状況

学校名 桑折町立醸芳小学校

職氏名 校長 遠藤 和宏

令和 5 年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

学校経営の根本精神「こつこつ とことん あきらめない」の共通認識を図り、重点目標「自分から勇気を持ってチャレンジ！」できる醸芳っ子の育成を目指し、教育活動を推進する。

- (1) 教職員が一体となり、潤いのある生き生きとした魅力ある学びの場を構成し、知・徳・体の調和の取れた心身ともに、健全で心豊かでたくましい児童の育成を目指す。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の実施により、学校、家庭、地域の連携・強化を図り、地域と共に子供たちを育む体制を確立する。
- (3) 学校評価、人事評価、学校評議員制度を教育活動の改善に活かし、よりよい学校づくりに努める。

2 学校経営総合評価

- (1) 「こつこつ とことん あきらめない」という根本精神、重点目標「自分から勇気を持ってチャレンジ！」を目標に掲げ、「自分から行動する」主体性に重点を置き、児童、教職員、保護者に浸透させながら継続して取り組んできた。その成果として、学習態度、学校行事への取組など児童の姿に着実に現れてきているが、「自分から」という部分についてはまだ課題が残っている。

次年度は「こつこつ とことん あきらめない」のめあてに一本化し、一步一步着実にめあてを達成できるように、年間を通して指導をしていきたい。

- (2) 「学力に責任をもつ」ことを共通認識とし、講師招聘による全体研修会（6 月、11 月）、1 人 1 授業研究と互見授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業の充実や指導方法の改善に努めることができた。

また、「確かな学力」の基礎となる取組として、読み・書き・計算の「徹底反復の時間」、「家読」運動への取組、主体的な家庭学習の習慣化など、組織的に着実に取り組んできた。その結果、全国学力学習状況調査、徹底反復のチェックテスト結果も向上させることができた。学力の二極化については、今年度は 3 年生以上の T T 指導が大変効果的であった。今後も対策を考えていきたい。

- (3) いじめ・不登校問題については、本人、保護者に寄り添いながら、「先生への手紙」などアンケート調査をもとに実態把握に努め、校長のリーダーシップの下に早期発見・早期対応に努めた。

不登校児童は 1 人（昨年度より継続）いるが、ケース会議を開いたり、保護者と懇談を行ったり、S S W と連携を図った取組等を行ったりすることで、着実に改善傾向が見られる。担任の取組を管理職が支え、家庭と学校のつなぎ役に努めた。

いじめ問題は、とくに大きな問題はなかったが、S N S を介してのトラブルが見られたので、今後も子供たちの様子を細やかに観察し、早期発見、早期対応に努めたい。

- (4) 保護者、地域から応援、信頼される「安心・安全な学校づくり」のため、町教育委員会と連携を図りながら、危機意識を持って取り組んだ。また、毎朝の立哨指導、授業における地域人材の積極的な活用とともに、情報発信（学校便り週 1 回、ホームページ毎日更新）により、学校の教育活動への理解と協力連携を深め、信頼感へとつなげてきた。これは、学校評価アンケートでも高い評価となっている。

また、今年度も地域ボランティアの助言を受けながら花いっぱいの環境づくりに力を入れ、「花いっぱいコンクール」福島県教育長賞受賞を果たした。醸芳小学校の伝統として、今後も継続していく。

- (5) 不祥事根絶のため、「風通しのよい職場づくり」「同僚性を高める職場づくり」こそ不祥事根絶の最善策であるという認識に立ち、教職員とのコミュニケーションを大切に、「報告・連絡・相談」体制を整えてきた。

また、当事者意識を高めるために校内服務倫理委員会の定期的な開催、「信頼される学校づくりを職場の力で」の活用、不祥事案の資料の配付等を着実にを行うことで、不祥事防止に対する当事者意識も高めることができています。しかし、校内服務倫理委員会の十分な時間の確保は難しく、今後も効果的な開催に向けて創意工夫を図っていきたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 学校経営

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価 達成状況
重点事項	1 学校経営・運営ビジョンの共通認識と具現化 2 保護者、地域から応援、信頼される学校づくり	B A
実践事項	1 教職員、児童、保護者へ教育活動の意識化 ○ 学校経営・運営ビジョンを明確に示し、教職員でしっかりと共通認識を図る。醸芳小の合言葉「こつこつ とことん あきらめない」が、日常的に児童の姿としてあらわれるように、年間を通して着実な実践をする。	B
	2 児童、保護者、地域への積極的な関わり、信頼関係づくりの強化 ○ 毎朝の立哨指導、通学班の安全指導、桑折学習塾への協力、各種団体の会合への参加、授業における地域人材の積極的な活用とともに、ホームページ（毎日更新）や学校便り（週1回）等で、児童の活躍を積極的に発信していく。	A
課題等	<p>○ 学校経営の根本精神は、平成25年度から受け継がれている「こつこつ とことんあきらめない」という合言葉である。これは、「継続、徹底、根気」を表しているもので、「継続して取り組んでいくこと、できるまで取り組んでいくこと、根気強く取り組んでいくこと」である。児童に対しては、学校行事等があるごとに、この言葉を用いて繰り返し話をしてきたため、かなり浸透してきた。この精神は、もちろん教職員にも当てはまり、様々な課題に対して、あきらめずに根気強く対処してほしいことを話している。</p> <p>○ 今年度「自分から勇気をもってチャレンジ！」という重点目標を掲げ、合言葉と並行して指導してきた。「主体性を伸ばす」ことは、昨年度からの継続であり、「良さや個性を大切にし、ほめて伸ばそう」と職員に呼びかけてきた。しかし、児童にとっては大きな目標が2つあることになり、焦点が薄れたように感じているため、来年度は「こつこつ～」の合言葉1本に絞って指導していくことにした。</p> <p>○ 朝の立哨指導については、児童が4方向から登校してくるため、校長が毎日4地点の横断歩道に立ち、安全指導及びあいさつ指導を行った。安全指導については、交通安全協会の方々にもご協力をいただいた。今年度で交通安全母の会の活動が終了となるので、今後は地域ごとに見守りを強化していただくように呼びかけた。</p> <p>○ 授業における人材活用については、桑折町ならではの地域学習を総合の時間を中心に行っている。りんご王林開発者、ほたる保存会、桑折町商工会、社会福祉協議会、生涯学習係などを講師に迎え学習を行った。また、老人クラブ、読み聞かせボランティアを活用した活動も行っており、授業だけでなく、クラブ活動や課外活動（器楽部）などでも地域人材を積極的に活用することができた。地域人材以外にも出前講座、学校歯科医・薬剤師、管理栄養士の指導もいただいた。</p> <p>○ 学校だよりは毎週、ホームページ更新は毎日行い、児童の活躍する姿を積極的に地域・保護者に発信し、大変好評である。また、緊急連絡メールを活用し、学校からのお知らせに活用したり、休日等に保護者からの連絡に活用したりできた。</p>	

(2) 学校教育管理

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価 達成状況
重点事項	1 現職教育授業研究会を活かした授業改善・充実 2 人間関係形成力、あいさつ力の育成を図った心の教育の充実 3 体力向上と健康教育の充実	A B B
実践事項	1 現職教育授業研究会を生かした授業改善・充実 ○ 講師招聘による授業研究、互見授業の活発化、管理職による日常的な授業観察により、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの指導助言をする。6月の「徹底反復」を活かした授業研究会、11月の国語科の全体授業では、研究の成果を発表する。また、タブレットや電子黒板などのICTを積極的に活用した授業改善を進める。	A

	<p>○ 読み、書き、計算の「徹底反復」の徹底、「家読」の取組、家庭学習の習慣化により、学習の基盤作りと学びの意欲付けが図られるようにする。</p>	B
	<p>2 「人間関係形成力」や「あいさつ力」の育成</p> <p>○ 望ましい学級集団づくりのために「先生への手紙」「ＱＵテスト」より、児童一人一人の内面を多面的に捉え、道徳科・学級活動の時間を核とした学級経営の充実を図る。迅速、丁寧、誠実な対応により、不安や悩みの解消、問題行動の未然防止に努める。児童会活動とタイアップし「あいさつ運動」等を通して意欲付けを図る。</p>	B
	<p>○ 特別な支援を必要とする児童、不登校児の対応については、リーダーシップを発揮し、積極的なケース会議を進め、町教委やＳＣ、ＳＳＷ、関係機関との連携・協力を図りながら、児童の特性に応じた学習環境が整えられるようにする。</p>	A
	<p>3 体力向上と健康教育の充実</p> <p>○ 運動身体づくりプログラムの継続、外遊びの奨励、スポーツ委員会によるスポーツ集会、はやぶさタイムの充実、体育専門の外部講師の活用により、運動の楽しさを実感させる。</p>	B
課題等	<p>○ 授業の改・充実については、「主体的、対話的で深い学び」の授業づくり、タブレットなどＩＣＴの効果的な活用を目指し、一人１授業研究を行った。ブロックでの互見授業が中心となったが、校長として授業の成果と課題をまとめ、１枚のリーフレットとして授業者に渡すようにしている。ＩＣＴ支援員を講師に自主的な研修を行い、技能を高める姿が見られた。６月の「徹底反復」を活かした授業研究会では、「徹底反復」で培われた集中力、気持ち・行動の切り替えを発揮した授業となった。１１月の全体授業では、新採２年目の教諭が行ったが、助言をもとに授業を組み立て実践し、成長を感じることができた。</p> <p>○ 町の取組である「徹底反復」については、学級ごとの取組の差を解消し、一定の成果を上げられるように取り組んできた。定期的に行われるチェックテストでも徐々に成績の伸びが見られるようになり、担任もその成果を実感することができた。「家読」の取組は家庭の協力も必要となる部分もあり、今後も継続して呼びかけていきたい。</p> <p>○ 「学級経営が学校経営の基盤となる」ことの共通理解を図り、年３回の「先生への手紙」、教育相談により児童の悩みや困り感に早期対応したり、ＱＵテストの結果を分析して学級集団の特徴、支援が必要な児童を把握しながら、学級経営に活かすことができた。</p> <p>○ 児童会運営委員会による「あいさつ運動」が進められたが、校内と校外で状況が変わる様子が見られる（校内の方が上手である）。しかし、下校時、横断歩道で停まってくれた運転手に頭を下げる行為は、伝統として伝わっており、地域からもお褒めの言葉をいただくことがある。</p> <p>○ 不登校児童については、保護者との懇談をもとに対応してきた。教頭によるオンラインでの健康観察や学習の指示、登校の促しなど、担任を支えながら行い、登校できる日も増えてきている。欠席はしないが毎日遅刻してくる児童が数名いる。ご家庭の協力もあり改善している児童がいる一方で、なかなか改善できない家庭環境の場合もある。健康福祉課とも連携しながら見守っていくことにする。</p> <p>○ 体力向上については、業間時に行う「はやぶさタイム」の時間、記録会の時期に合わせて、持久走やなわとびに取り組ませた。また、福島大学トラッククラブ指導による陸上教室、福島ユナイテッドＦＣによる指導、聖光学院協力によるタグラグビー教室など、外部講師を活用した指導の機会も多く設定することができた。</p> <p>○ 健康教育の推進については、管理栄養士による食育指導、学校歯科医や薬剤師によるむし歯予防、薬物乱用防止の指導を行った。また、学校保健委員会を開催し、学校、学校医、保護者を交えて、健康的な生活について話し合う機会を設けた。むし歯治療率は昨年度より上がった。</p>	

(3) 人事管理（教職員の指導・管理）

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価 達成状況
重点事項	<p>1 教育公務員としての不祥事根絶</p> <p>2 教職員の専門性や資質能力の向上、心身の健康管理と職務遂行</p>	<p>A</p> <p>B</p>

実践事項	1 感度を高め、共有化を図る危機管理意識の徹底 ○ 校内服務倫理委員会の効果的な実施、外部による客観的な意見を取り入れた会の運営により、当事者意識、同僚性の醸成が図られるようにする。教職員とのコミュニケーションを大切にし、管理職に相談しやすい風通しのよい職場作りに努め、「報・連・相体制」を確立する。	B
	2 教職員一人一人の日々の取組の評価と継続的な指導 ○ 教職員一人一人とのコミュニケーション、日頃の授業観察の機会を多くし、教職員の日々の取組、強みやよさを認め、励まし、資質能力を高める。	A
課題等	○ 不祥事根絶については、毎月職員会議後に服務倫理委員会を開催し、不祥事の例を自分事と捉え、倫理観を高めるように運営をしてきた。時間が十分に確保できないため、深い研修を行うことはできなかったため、運営方法については改善の余地がある。学校評議員から助言をいただくことができた。 ○ 些細なことでも「報告、連絡、相談」できるように、職員間のコミュニケーションを活発化させ、担任が一人で抱え込まないようにした。教職員からの情報は全て教頭に集められ、校長に伝えられるシステムができています。教頭や教務主任を中心に教職員との連絡調整がうまく進められた。 ○ 教職員の資質・向上については、研修履歴制度を活用し、期首・期末面談にて個々の研修について指導助言を行った。人事面談では、教職員の実践のよさを積極的に称賛し、実践意欲の向上に努めた。とくに、今年度も新規採用者が配置されたため、学級経営や教科指導の悩みに周囲が積極的に関わり、みんなで高めようとする雰囲気が高まった。	

(4) その他

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価 達成状況
重点事項	1 コロナ、インフルエンザ等感染拡大予防と危機管理意識の徹底 2 地域と連携を図った教育活動の推進	B A
実践事項	1 コロナやインフルエンザ等感染拡大予防と危機管理意識の徹底 ○ コロナやインフルエンザ等感染症に関する通知など情報を共有し、また県内等の感染状況を教職員、児童、保護者に伝え、危機意識を高め、マンネリ化せず組織的、継続的に取り組んでいく。	B
	○ 学警連や町内の生徒指導の情報をもとに、積極的な安全指導に努める。安全な登下校については、PTAや交通安全協会、警察等関係機関と一体となった体制づくりをする。	B
	2 地域と連携を図った教育活動の推進 ○ 桑折町の歴史や産業などについて、外部講師の招聘や現地の見学等を通して学ぶことにより、桑折地域のよさに気づかせていく。	A
課題等	○ 感染症の情報を常に入手し、教職員内で共有しながら対応にあたった。今年度はコロナにかわりインフルエンザが猛威を振るい、学級閉鎖となった学級が多数出た。教職員の罹患もあり、補欠体制に苦労した。今後も感染状況に敏感になりながら、早めの対応を進めていきたい。 ○ 地域から、危険な遊び方についての情報が時折入ってきた。その都度、個人及び学級での指導を行った。保護者には、登校しながら、買い物をしながらなど「ながら見守り」の実践をお願いした。今年度も交通事故が発生しなかったため、今後も気を付けていきたい。 ○ 今年度は旧伊達郡役所140周年誕生祭があり、それに関わり「こども歴史案内人」として6年生5名が参加した。桑折町には、よさを学ぶ素晴らしい教材が豊富で、協力してくださる地域人材も多い。このよさを活かしながら、今後も桑折町のよさを学ぶ学習を積極的に行っていきたい。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

【校長学校経営評価】

令和 6 年 3 月 2 1 日

学校名 桑折町立睦合小学校
職氏名 校長 齋藤 貴恵

令和 5 年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

- (1) 安全・安心、信頼される学校づくりの推進
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着とともに、その活用を図る学習活動の推進
- (3) 学習指導要領を踏まえた指導の充実
- (4) 人権意識を高め「いじめ見逃し 0 の学校」をめざす
- (5) 健やかな心身を育てる健康教育の推進
- (6) 読書指導の充実
- (7) 少人数の良さを活かした学習指導・生徒指導
- (8) 指導力を培う校内研究・研修充実

2 学校経営総合評価

- (1) 「学び合い 睦み合い 元気でねばり強い むつみっ子の育成」の教育目標と児童像の具現に向け、教職員が一丸となり教育活動を進めてきた。方針第一にある「安全・安心、そして信頼される学校であること」は、家庭や地域の信頼があつてこそ豊かな教育活動が成り立つ。そのことを全職員で常に確認し、開かれた学校を目指し、学校のホームページや学校だよりで学校の様子を紹介する等情報発信に努めてきた。特にホームページについては、毎日更新し、日々の教育活動をリアルタイムで発信してきた。また、緊急のお知らせについては、一斉メール送信を、学校経営に係る内容については、学校だよりや通知文書を活用し啓発してきた。そのため、保護者や地域からの苦情はほとんど無かった。

新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行してからも、インフルエンザ等の別の感染症流行が懸念されることが度々あった。そのため、児童の健康状況の把握や家庭との連携、マスク着用、教室の換気などのコロナ禍で習得したことを再指導し、児童の感染防止の徹底に努めた。そのため全児童出席が 9 0 日を上回った。複式学級増設や教員の働き方改革を見据え、学校行事等の再構築に努めてきた。

次年度本校は、創立 1 5 0 周年を迎える。そのため、保護者や地域と連携し、実行委員会を立ち上げ、記念事業の計画を推進してきた。地域全体が力を合わせ、アルミ缶やスチール缶を学校へ持参し、その収益を基に、予算立てを行うことができた。保護者も、企画立案から参加し、学校評議員等からも意見をいただく等、連携強化に努めてきた。

- (2) 学力向上に関しては、本町の方針と事業、現職教育の相互関連を密にして取り組むことができた。

現職教育では、全ての学級が同一歩調で研究主題に沿って実践を進め、成果を共有し、教員が自らの授業力向上に努める意識が向上した。

町内小学校で統一して実施の「徹底反復学習」については、課題と指摘された「音読指導」について学力向上担当教員を中心に教員間で協議し、「はきはき・すらすら・正しく」を音読の三原則とし児童に周知した。また、徐々に長い作品の暗唱にも努めさせてきた。さらに管理職が参観することで、学校全体で取組みが一本化し、漢字・百ます計算チェックテストでの数値に大きな成果が見られ、ねらいである漢字、計算などの基礎的・基本的な学力の定着、集中力の向上へ繋げることができた。

現職テーマ「ともに考え、自らの学びを深める児童の育成～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて」を目指す授業では、自分や教材、他者との対話を生み出す学習過程の工夫により、児童が問いをもち、考えたい課題を設定したことで、児童の「考えたい」、「学びたい」という意欲を喚起するような授業が展開できたこと等が成果としてあげられた。一方で、次の学習につながる振り返りの力（学習の自己マネジメント力）が、単なる活動としての振り返りにならないように

配慮し、児童の自発的な振り返りを促す必要があるといった課題があげられた。

また、今年初めて本校には、複式学級が誕生した。本年度は、変則複式のため、県の補正教員が配置され、複式授業は一部のみの実施であったが、次年度からは、複式学級が増設していく予定である。今後、従来以上に、本校ならではの小規模校の良さを活かした授業研究が重要度を増す。そのため、タブレットツール等のICTを活用した「個別最適な学び」と人との関わりを大切にした「協働的な学び」を往還する実践を積み重ねる必要がある。

- (3) 校名の由来でもある「睦み合う心」を育て、「いじめのない学校」を目指し、いじめアンケート調査や日常観察を重視し、少人数の良さを活かした生徒指導を徹底してきた。トラブル等が発生した場合には担任だけに任せず生徒指導主事を中心に「ケース会議」や「複数での教育相談」を実施する等組織的に迅速な対応を重視してきた。また、養護教諭や特別支援支援員、SCと連携し、児童の心のケアも行ってきた。

今後も小規模校のよさを活かして、「全校生を全職員で見守る」体制を継続させていく。

- (4) 体力向上の「遊具がんばり」の取組みは、本校の伝統の一つであり、休み時間、授業、運動会等と関連付けて、一輪車、竹馬、雲梯等の遊具、器具を使い、系統的に体力向上を図ってきた。運動会、持久走記録会、なわとび記録会を全校生で実施し、児童が自らめあてをもって運動に取り組むことができた。運動に対する高い興味関心を維持させ、体力向上にむけての意欲を維持していきたい。

また、本校の健康課題は、肥満児童の高出現率と野菜の低摂取率である。肥満解消には、「むつあいウォーキングチャレンジ」を児童会中心に実施した。全児童へ配付した万歩計により、児童は、これまで無関心だった日々の自身の運動量を「歩数」という形で、目的意識を持って生活するようになった。野菜の摂取率向上には、養護教諭を中心に、町健康保健課と連携し、「ベジチェック」を実施した。どちらも、自分の健康課題を「見える化」することで、児童の意識啓発に繋がった。本取組みについては、今後も効果を検証しながら工夫して取り組んでいきたい。

3 学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1) 学校経営

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 職員の「学校経営・運営ビジョン」への意識持続と解決に向けた実践	B
	② 保護者・地域との連携強化	A
実践事項	① ア 「経営方針・ビジョン」「県や町の施策」の具現化への取組	B
	イ カリキュラムマネジメントを意識し、より高い学びの姿を求め、	A
	地域・人との出会いや、特色ある教育活動の実践	
	・ 夢の木、地域人材活用・歴史（西山城）等	B
	・ 複式指導体制の構築	
	ウ 人事評価の機会を活用し、個々が課題解決意欲を高める働きかけ	B
	・ 短・中・長期目標設定と組織としての機能の向上	B
	・ 管理職の的確な見取りと相談体制の充実	A
	② 健やかな成長を願う保護者や地域との連携強化（地域と連携した150周年記念事業への準備）	B
	・ 安全点検実施（教員・児童）と危険箇所改善に向けた取組	A
	・ 学校だよりとHP、学校メールによる速やかな情報提供	
課題等	複式指導について、校内研修、先進校視察、教育課程編成、校内指導体制の整備を順次実施してきた。しかし、年度末の急な学級編制変更や新1年生保護者への不安解消への取組が困難をきたした。次年度は、町教育委員会と連携し、課題解決に向かいたい。	

(2) 学校教育の管理

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 学力向上に向けた授業改善	A
	② いじめ見逃し0の学校の実現 ・組織的相談体制の充実と早期対応	A
	③ 体力向上と健康の保持増進	A
実践事項	① 主体的に学ぶ授業の実現	B
	ア 県や町教育施策の徹底と基礎・基本的内容の定着（「学びタイム」、徹底反復学習、読書タイム等の実施徹底）	A
	イ 個の学びに応じた指導の工夫改善と複式指導の充実	B
	ウ 家庭との連携充実（自学コンテストの実施、I C T機器の活用）	B
	エ 特別支援教育体制の充実	B
	② ア 豊かな体験活動を実践する機会の設定	A
	イ 道徳科を核とした生き方、命の大切さに対する心情を高める取組	B
	ウ 「不登校」「いじめ」等の予防、早期発見と対処 ・ 学校方針理解と組織での確認、家庭への周知 ・ 些細な事も見逃さない対応 ・ 学級ルールや人間関係充実の取組	A
	③ 体力向上に向けた実践	B
	ア 体育科授業の充実	B
	イ 朝、業間運動、一校一実践「遊具がんばりカード」の活用	B
	ウ 運動身体づくりプログラムの実施	B
課題等	徹底反復学習や全国学力調査、ふくしま学力調査、N R Tテスト等を活用し、学力向上に努め、成果が得られてきた。しかし、児童質問紙分析や児童の実態から、主体的に学ぶ力（学習の自己マネジメント力）の向上が求められる。今後の複式学級増設に伴い、授業実践をとおして身に付けさせていきたい。	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 無事故・不祥事絶無の徹底	A
	② 児童理解力向上の研修の実施	B
実践事項	① ア 服務倫理委員会方法・内容を改善する。 ・ 輪番制話題提供と時期を考慮した啓発	B
	イ 多忙感解消に向けた会議・業務の見直し ・ 管理職が勤務・生活状況を把握し、助言する。	A
	ウ ノー残業デイ、児童一斉下校日の設定	B
	② ア 調査結果分析と対応を確実に行う。計画的な研修により、児童理解力や学級経営力の向上を図る。	B
	イ 管理職が自ら研修姿勢を示し、外部機関と連携し、研修内容の充実を図る。	A
		A
課題等	教員定数2名減による多忙感が増し、1学期後半に、教員の病気休暇取得が多かった。そのため、教頭と連携し、複式学級の分科体制を再度組み直したり、校務分掌の軽減化を実施した。次年度は、年度内に複式指導体制を構造化し、少ない人数でも教育活動が充実するよう工夫・改善していきたい。	

(4)その他

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	① 地域へ貢献する教育活動を展開する。 ・ 地域学習、運動会、防災訓練等	B
	② 感染症拡大防止への対応	A
実践事項	① 地域の人や歴史に触れる教育活動を充実する。 ・ 児童や保護者に地域とともにあることを実感できるようにする。	B
	② 学校・家庭・地域が連携し、感染拡大防止に取り組む。 ・ 全児童出席日数90日以上を達成	A
課題等	ミサイル着弾を想定した地域防災訓練や150周年記念事業の実行委員会発足、消防団による初午の参観等地域との連携を管理職中心に取り組んできた。 次年度は、創立150周年記念の年として、児童の教育活動へ浸透するように、教職員や教育活動のマネジメントに取り組んでいきたい。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

令和6年2月29日

学校名 桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 五十嵐 洋之

令和5年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針

本校の学校経営の基本理念は、歴史と伝統を誇る半田醸芳小学校の根底にある「醸芳」の精神や、「半田銀山」にまつわる勤労意欲、不屈の精神、人間尊重の教育を基調として、「半田プライドを胸にふるさとを愛し高い志と強い意志をもち地域と共に学ぶ半田っ子」の育成としている。そのために、以下のことを推進する。

- (1) 「すべては児童のため」を基本においた経営
- (2) 「チーム半田」による質の高い教育活動の創造
- (3) 教育目標達成のための3本の柱（知・徳・体）を軸とした確かな教育実践
- (4) 学習指導要領を基に、教師一人一人の指導力の向上を図る研修の充実と、校務分掌上の組織を積極的に生かした学校経営
- (5) 生徒指導の機能を生かした教育活動の展開
- (6) 「半田ならではの」伝統ある地域の教育力を生かし、学校・家庭・地域が一体となった教育実践
- (7) 児童が安心・安全に生活できる学校環境・学級経営
- (8) 県北教育事務所、桑折町教育委員会の重点目標に基づいた教育の実現

2 学校経営総合評価

- (1) 学校経営・運営ビジョンの具現に向け、全職員がビジョン策定に関わり、また、職員会議等で学校運営の方針や校長の考えを継続的に示し、教育目標の達成及び学校課題の解決に向けて一丸となって取り組んできた。

本校の特色ある教育活動の一つは、「ふるさと学」とする地域学習である。地域の高い教育力（人材）と豊かな地域教材（もの・こと）を活用し、「半田ならではの」教育活動を展開した。コロナによる活動制限が緩和され、「半田銀山祇園ばやし」（3～4年）、ホテル学習及び学校田での米作り（5年）、半田銀山や西山城を中心とした歴史学習（6年）など、密度の濃い学習を行うことができ、ふるさと半田を愛する心の育成に努めることができた。学校評価でも高い肯定的評価をいただいている。

今年度の現職教育（授業研究）は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくり、その中でも、これまで実践を積み重ねてきた「振り返り」に至る「思考を深める共有」に視点をあて、一人一研究授業を実施した。事後研究会では、町教育委員会指導主事の助言をもとに、成果と課題を共有しながら授業力アップを図り、各種調査の結果でも成果をあげることができた。

- (2) 生徒指導に関しては、「児童に寄り添う指導」「よさを認め、称賛し、価値付ける指導」の共通理解のもと、「親和的で規律ある学級集団づくり」を充実させることができた。また、日常的な観察や生活アンケート、アンケートQ U、それらと関連させた教育相談により児童の実態を的確に把握しながら、未然防止と問題の早期発見・早期解決を図った。生徒指導協議会や教育支援委員会では、児童に関する情報を教職員間で共通理解を図りながら、「いじめ解消100%、不登校出現0」「個に応じた特別支援教育」を推進することができた。

現在、不登校児はいない。今後も継続できるよう、保護者としっかり連携するとともに、児童や保護者が抱える課題に応じて、町SCやSSWにつなぎアドバイスを受けながら、個に応じた指導を継続していきたい。通級指導教室に通う児童は4名いるが、通級指導教室担当と担任が常に情報共有を図りながら、また保護者との面談を通してよりよい指導を目指している。通常の授業では、特別支援コーディネーターの計画のもと、特別教育支援員が授業に入り、教育的配慮が必要な児童に対し、適切な支援を行っている。

- (3) 教職員人事評価及び研修履歴を活用した受講奨励制度を活用し、教職員が教育目標の実現及び自己目標の達成に向けて、主体的に努力できるよう、面談の際には、ステージに合わせて具体的に指導助言を行った。また、毎日の教室訪問を実施し、活動を終えた際には「よさを認め励ます言葉かけ」を継続的に行った。

教職員の不祥事については、不祥事を自分事としてとらえることができるように、課題ごとに担当者を決め、課題に対して具体的な実践事例やチェックシート等を提案する型の服務倫理委員会、「半田醸芳小学校不祥事根絶スローガン」の募集、昨今の事案をもとにした「服務倫理だより」の発行等を実施した。今年度も外部人材（PTA 役員・警察署員）の参加も実現した。次年度も教職員一人一人の倫理観と危機意識を高め、不祥事を自分事として捉えることができるよう働きかけを工夫しながら、不祥事の根絶を徹底していく。

- (4) 来年度の学校経営・運営ビジョンの策定にあたり、今年度の教育活動を振り返り、本校の強み

と弱みを教職員で整理・確認した。学力的にも平均以上であり、また、素直で心優しく、言われれば誠実に頑張れる子どもたちであるが、粘り強くやり通す力が弱いこと、現状に満足してしまうこと、さらによりよい解決方法を工夫すること等が課題として挙げられた。また、中学校進学後、学力面・体力面でも伸び悩みが見られることなどから、来年度は、「向上心」「粘り強さ」「創意工夫する力」を目指すスローガンを設定し、今年度の活動を「継続」「深化」させることができるよう、教職員・児童と課題を共有しながら重点的に取り組んでいくこととした。

教職員については、「半田プライド」「チーム半田」の名の下に一致団結し、目指す方向を同じくして取り組める雰囲気と信頼関係がある。これは、半田醸芳小学校の伝統でもあるので、今後も大事にしながら学校経営を進めていきたい。

3 学校経営課題の実施状況

(1) 学校経営全般について

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 学校経営の基本理念である「半田プライド」を共有し、全教育活動を通じての実践を推進する。 2 「桑折町の15歳の目指す姿」に向けた取組のさらなる充実 3 地域や保護者から信頼される学校運営と連携を密にした教育活動の推進	A
実践事項	① 全職員がミッション策定に関わるとともに、職員会議・研修等で「学校経営・運営ビジョン」への理解を深め、具体的な取組の成果と課題を共有し、改善を図る。	B
	② 児童に対し、集会・行事等において「半田プライド」や今年度の学校スローガンについて継続的に説明する。	A
	③ 徹底反復練習、体力向上「一学級一実践」など町全体で取り組む事業について、見取りと評価（数値・姿）を確実に実施し、さらなる内容の充実を図る。	B
	④ HP（毎日更新）や学校だより（月2回程度）を活用し、学校の取組や児童の活躍の様子を、地域・保護者に積極的に発信し、活動の目標・目的等を共有し連携を図る。	A
	⑤ PTA・評議員・民生委員等、関係機関との情報共有を密にし、連携を図りながら教育活動を進める。	A
課 題 等	① 今年度位置づけた運営ビジョン「評価・チェック項目」をもとに、データや児童の姿から成果と課題を的確に捉え、次年度の計画策定に活かしていきたい。 ② 学校スローガン（向上心・根気強さ・創意工夫）は、各種行事等において繰り返し児童に説いてきたため、児童及び職員にも共通理解が図られた。また、校内活動で見られた「半田プライド」につながる姿を家庭へもお知らせするとともに、写真や文章で定期的に掲示するなどして意識の浸透を図ることができた。受け継ぐべき伝統としてさらに発展させたい。 ③ 町全体で取り組む事業のうち、徹底反復及び家読の取組は、日々の授業につながるものとして継続的に指導した結果もあり、数値的にも十分に成果を上げることができた。体力向上の取組については、良化傾向への兆しが見えてきている。今後も、学校の体力的課題を明確にし、指導の重点化を図ることでさらなる改善につなげていきたい。 ④ HPはほぼ毎日、1日数回更新することができ、学校だよりについてもほぼ月2回のペースで発行することができた。子どもたちの活躍の様子だけでなく、活動の目的や方針等も保護者へのお知らせすることにより、共通の目標をもって子どもたちを支援することができた。HPは保護者からも好評を得ている。 ⑤ 各種教育活動の充実はもちろん、「働き方改革」等についても、ご意見をいただく機会を設定し、保護者・地域の理解を得ながら推進していきたい。	

(2) 学校教育の管理について

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 確かな学力の定着と、「思考を深める共有」の充実、「個別最適化学び」を推進するICT機器の効果的活用	B

	2 道徳教育・個に応じた生徒指導の充実による豊かな人間性の育成 3 教科体育の充実と運動の日常化による体力の向上及び健やかな心身の育成	
実践事項	① 各種調査等の結果による学力の実態を的確に把握し、少人数のよさを活かした個に応じたきめ細やかな指導を推進する。	B
	② 自らの高まりを実感できる「まとめ・振り返り」をさらに充実させるための「共有」のあり方の工夫、児童の課題意識と解決意欲を高めるとともに、問題解決型の授業実践により、主体的・協働的に学ぶ態度を育成する。	B
	③ 「ICTありきの指導」ではなく、思考を深めるための効果的な活用への事例等を研究する。	B
	④ 道徳科授業を核とした、「思いやり」「生命尊重」「他者理解」等の指導の充実を図り、道徳的心情・実践力を高める。	B
	⑤ 「児童に寄り添った指導」をさらに推進し、児童一人ひとりの自己肯定感が高まるような働きかけを工夫する。	A
	⑥ 運動身体づくりプログラムの自校化、休み時間等における運動時間の確保と可視化、取組の称賛、児童の体力の実態に応じた指導計画を推進することにより、計画的に体力向上を図る。	A
	⑥ 養護教諭・栄養教諭・学校医・学校薬剤師と連携を図り、学校の実態に応じた保健健康指導を推進する。	A
課題等	① 授業はもちろん、「ちょこっとタイム」（15分間 週3回）を活用し、学級の学力の実態に応じた指導を積み重ねることができた。今後は、徹底反復と個別指導をしっかりと連携させながら進めていきたい。	
	② 現職教育を中心とした授業実践により、思考を深める「共有」とねらいに沿った「まとめ・振り返り」が充実してきた。根拠や理由を明確にした「共有」となるよう、様々な表現を工夫していきたい。	
	③ 町ICT活用検討委員会や各種研修で学んだことを教員間で共有し、実践化が図られてきた。ICT指導員との連携・協働活動を充実させ、さらなる効果的な活用を図っていきたい。	
	④ ゲストティーチャーの活用等を通して、子どもたち一人ひとりの心に響く「道徳科授業」が推進できた。活用できる人材の発掘等を進めていきたい。	
	⑤ いじめや不登校、問題行動等は少ないが、アンケート調査等により児童の実態・小さな変化を把握し、また、校内で発生した各事例について全職員で共通理解を図ってきた。今後も「いじめ解消100%、不登校0」を継続していきたい。	
	⑥ 運動能力はもちろん、運動に対する意識でも二極化が見られる。運動習慣が日常化するよう、取組への称賛・価値づけを繰り返すとともに、がんばりと成果を可視化し表彰を行うなど、意欲付けを図ってきたい。	
	⑦ 「生活チェック表」をもとに、養護教諭・生徒指導主事が中心となり、正しい生活習慣確立に向けた指導を充実させることができた。また、保健衛生に関わる「触れて、見て、理解できる」校内掲示等を工夫することにより、子どもたちの意識も高まっている。	

(3) 教職員の指導・監督について

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 個のライフスタイル等に応じた助言等による教職員の心身の健康管理と勤労意欲の向上 2 人事評価制度や研修履歴に基づいた受講奨励制度の効果的活用による教職員の専門的な資質・能力の向上 3 服務倫理委員会のさらなる充実による教職員不祥事の絶無	A
実践事項	① 教職員との日常的なコミュニケーションを通して健康状態等を把握するとともに、個や状況に応じた助言・言葉かけを工夫する。	A
	② 人事評価制度を活用し、教職員一人一人のステージに応じた目標を設定させ、よさを活かした指導助言を継続的に行う。	B

	③ 外部講師の招聘や担当者による取組の提案, PTA 保護者の参加等, 服務倫理委員会の充実を図り, 不祥事の絶無を継続する。また, 「半田醸芳小学校不祥事根絶スローガン」の募集や校長による「服務倫理便り」を定期的に発行し, 当事者意識を高め, 継続的に注意喚起を促す。	A
課題等	<p>① 各自の体調や既往歴, 「時間外勤務一覧」等の内容を踏まえ, 個別の声かけを工夫することができた。また, 管理職・教務主任・主事が連携することにより, 校務の負担軽減につなげることができた。保護者・地域の理解を得ながら「働き方改革」を推進していきたい。</p> <p>② 期首面談や中間面談の機会に, 教職員の目標達成のために具体的な助言を行ったり, 管理職からの期待を伝えたりすることができた。ただ, 面談の機会だけでは指導助言は不十分である。常日頃の授業観察や声かけがとても大切であり, さらに工夫していきたい。また, 本人の目標や課題に応じた研修等を薦めていく必要がある。</p> <p>③ PTA 役員の参加や桑折分庁舎警察官を講師としてお招きしての服務倫理委員会を実施することができた。民間でのコンプライアンスに係る取組を紹介いただいたり, 専門的な知識を指導していただくことで, 多面的に不祥事防止への理解を深めることができた。また, 「半田醸芳小学校不祥事根絶スローガン」や校長発行の「服務倫理便り」を通して, 不祥事防止への意識を高めるとともに, 不祥事を自分事として捉えることができた。今後も組織的な取組を通して「不祥事0」を継続していく。</p>	

(4) その他について

項目	主な実践事項	評価
		達成状況
重点事項	<p>1 学校事故の未然防止と感染症対策の継続指導</p> <p>2 地域に開かれた学校づくりに努め, 特色ある教育活動を推進する。</p>	A
実践事項	<p>① 「安全指導にやりすぎなし」を徹底し, 時期や学校の実態に応じた指導を継続し, 子どもたちの安心・安全を確保する。</p> <p>② 施設等の日常的な点検を確実に行うとともに, 各種訓練等の事前・事後指導を充実させる。</p> <p>③ 地域の「人・もの・こと」を効果的に活用した「ふるさと学」のさらなる推進と充実を図る。また, 活動の様子を情報発信し, 協力・連携体制を整える。</p>	A
課題等	<p>① 生徒指導部を中心とした未然防止指導が継続的に実施され, 子どもの危機意識や実践力が高まった。感染症対策は, やや危機意識が薄らいできているので, 家庭と連携しながら基本的な対策を継続していきたい。</p> <p>② 大きな事故・事件等もなく教育活動を進めることができた。「子どもたちの安全・安心を第一に考える」ことが全職員にも浸透し, 「報連相」が徹底され, 未然防止対応や事前・事後指導を計画的に行うことができた。</p> <p>③ 「半田ならではの」地域学習である「ふるさと学」を多くの方々の協力を得ながら, 計画通りに実施することができた。今年度は, 「伊達郡役所140周年記念生誕祭」のオープニングセレモニーに参加する機会があり, 本校の取組(半田祇園囃子の伝統継承)を広くアピールすることができた。今後も学校の取組を積極的に発信し, 地域の方々との協力・連携体制を強固なものにしていきたい。また, 活動がマンネリ化しないよう, 新たな地域資源の開発に取り組んでいきたい。</p>	

評価は, A, B, C, D の4段階評価とする

A (4): 十分に目標を達成している。

B (3): おおむね, 目標を達成している。

C (2): やや目標の達成には至っていない。

D (1): 目標を達成していない。

令和 6 年 2 月 2 9 日

学校名 桑折町立伊達崎小学校

職氏名 校長 佐 藤 浩 哉

令和 5 年度学校経営評価報告書

1 学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

「福島県沖地震の被災状況下においても桑折町教育振興基本計画と教育計画に基づき、教育活動の充実を目指す」こと、また、桑折町教育委員会や各学校、保護者、関係機関等と連携して教育活動を進めるため、連絡・相談を緊密に行うことを前提に以下の本校教育目標に向かい取り組んできた。

(1) よく考え本気で学習する子ども

読み・書き・計算の徹底反復により、基礎学力の定着を図る。

授業研究を充実させ、授業力の向上を図る。

自学ノートの指導を通して、家庭学習の習慣化と自己マネジメントの向上を図る。

(2) 心豊かな礼儀正しい子ども

地域の方々との交流や地域素材を生かした多様な体験活動を組織する。

読書の時間を週 3 回位置づけ、目標冊数の読破を促し読書活動を活性化させる。

心あるあいさつと返事の指導などを通して、時と場に応じた行動を身につけさせる。

(3) 明るく元気にやりとげる子ども

マラソンやなわとびを奨励し、運動の日常化を推進する。

感染症予防の対策を徹底し、児童と保護者の意識を高める。

早寝・早起き・朝ごはん、スクリーンタイムについて意識させ、健全な生活習慣を身につけさせる。

(4) 保護者・地域に開かれた学校

H P、学年だより等で学校の見える化を図り、保護・地域との協力体制を構築する。

P T A 会員数に応じて P T A 組織を改編し活動を円滑化する。

2 学校経営総合評価

(1) めざす児童像を「自ら考え行動し、粘り強く努力する子ども」とし、徹底反復、鼓笛、マラソン、なわとび、自学ノートなどの指導の際に、目標と振り返りを意識させ、また、できる限り、認め称賛することにより、自尊感情を育成することができてきている。

(2) 福島県沖地震被災復旧工事と感染症への対応を行いながら、教育課程を実施した。

桑折町教育委員会の指導の下、町内の各小・中学校と情報交換をし、教育活動の充実を図った。特に入学式、運動会、宿泊学習、学習発表会、マラソン大会、修学旅行などの学校行事については、それぞれ以下のように実施した。

入 学 式：来賓数は制限したが、在校生は全員参加して実施できた。

運 動 会：昨年度まで 9 月に実施していたが、震災以前と同様、5 月に午前中の行事として運動会を実施した。来賓や各家庭の人数制限は行わなかった。

宿 泊 学 習：いわき自然の家と日時を調整し、8 月末に実施した。

学 習 発 表 会：全校児童で実施した。保護者、来賓の制限を設けなかった。

マラソン大会：校舎周辺道路を使い、P T A 役員の協力を得て実施した。

修 学 旅 行：本年度から 6 年生対象に、東京方面で実施した。

被災の復旧工事で土曜日、夏季休業期間には、工事音が大きく響き、教職員の業務に影響があったが、全職員復旧を前向きにとらえ、協力的に業務に取り組んだ。休業日の工事には、校長、教頭が交代で工事業者対応を行った。

感染症対策を継続していたが、４年生で９月にインフルエンザによる２日間の学級閉鎖もあり、その後の様々な感染症対策を徹底してきた。

３ 学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

（１）学校経営

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	１ 福島県沖地震の被災状況下においても桑折町教育振興基本計画と教育計画に基づき、教育活動の充実を目指す。	A
	２ 桑折町教育委員会や各学校、保護者、関係機関等と連携して教育活動を進めるため、連絡・相談を緊密に行う。	A
実践事項	困難な状況にあっても明るく前向きに教え導く教職員の姿を通して、児童の気持ちを明るく前向きにする。	A
	「めざす子ども像」を意識しながら、体験活動を重視した教育活動を展開する。	A
	教育課程の実施、授業改善、不登校傾向児対応、学習・生活習慣の確立について、町教育委員会の指導の下、PTAや各小学校と連携し推進する。	B
課題等	授業改善については、各教員が積極的に現職教育に取り組み成果を上げた。学習・生活習慣の確立については、特にスクリーンタイムの増加について懸念しており、保護者と話す機会を捉えて、その危険性を伝えている。今後も様々な機会・手段で啓発したい。	

（２）学校教育の管理

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	１ 感染症対策 各種感染症対策を徹底する。	A
	２ 学力向上 (1) 基礎学力向上及び集中力の向上を図る。	B
	(2) 自ら考えともに学びを深める子どもの育成を目指して、個別最適化・協働的・探究的な学びを意識して授業改善する。	
	３ 心の教育 (1) 読書の習慣化を図り、豊かな情操を養う。	B
	(2) 縦割り班活動や地域人材・資源を活用した体験活動により社会性や郷土愛を培う。	
	(3) 規範意識を高め、時と場に応じた行動を身に付けさせる。	
	４ 健康の増進・体力向上 (1) 運動の日常化を図る。	A
	(2) 健全な生活習慣を身に付けさせる。	
	５ 特別支援教育の充実 (1) 個々の児童の特性に応じて、社会的適応を図るための手立てを工夫し、学力の向上を図る。	B

実践事項	感染症対策のために、職員会議、打合せ等で方針、対策の共通理解を図り、児童への指導を徹底するとともに、各家庭への協力を依頼する。	A
	個人内評価を重視した読み・書き・計算徹底反復学習により個々の学力向上を図る。特に暗唱に注力し自尊感情を育む。	A
	昨年度までのコーディネート工夫に、今年度はさらに、まとめと振り返りに焦点をあてて、全員で授業研究を行い、検証する。	B
	タブレットの活用方法の研修を深め、一人一人の学びを保障し学び合いを推進する。	B
	図書室の環境を整えるとともに、読書タイム（週３回）と家読を積極的に推進する。	B
	登校や清掃における縦割り班活動を推進するとともに、町教委等の関係機関と連携して地域人材を活用して多様な体験活動を行う。	A
	いじめ見逃し０のため、アンケート及び日常の観察を行う。	A
	○ 特に「あいさつ」と「返事」を意識させる。	A
	運動身体づくりプログラムの自校化と「あぶくまマラソン」「なわとび大会」の充実を図る。	B
	「学びの習慣チェックシート」や日常観察等から実態を把握し、全体・個別に指導する。	A
課題等	諸検査により本人の特性を把握し、SC、SSWや医療機関の協力を得て、保護者と連携して、個別の指導計画策定を含め、指導の手立てを講じていく。	B
	素直な児童が多く、教員の指導の下、学力と体力を伸ばしている。授業におけるまとめと振り返りが定着しており、自分の学びを自分の言葉で表現できるようになった児童も多い。しかし、課題を与えられない、指示されない場合など、主体的に学習や行動ができない児童も多い。そのため、自主学習ノートを生かし、個別に学習の習慣化やマネジメント力を身に付けさせたい。	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項 目	お も な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 教職員が安定して職務を遂行できるように、指導助言を行う。	A
	2 研修履歴シートを活用し、各教職員の経験に応じた課題をとらえて、指導助言を行い、教員一人一人の指導力の向上を図る。	A
	3 教職員の不祥事防止に努める。	B
実践事項	教頭、養護教諭と相談・打合せを行い、各教職員の健康、家庭の状況などをふまえて相談・助言にあたる。	A
	人事評価面談時に研修履歴を活用した対話による研修受講奨励を行うとともに、現職教育の授業研究を核として指導助言を行う。また、日頃の授業訪問で気づいたことを伝える。	A
	「不祥事根絶のための行動計画」をもとに、『信頼される学校づくりを職場の力で』を活用するとともに、通知文や具体的事例を取り上げるとともに、各自の考えを述べ合う機会を設定し、教職員の意識を高め、服務倫理委員会の充実を図る。	B

課題等	<p>サービス倫理委員会の運営の仕方や内容を検討し、互いに運営を担当したり、自分事としての意見を述べ合ったりした。しかし、家庭内のことまで把握しきれないことも多々あり、今後の課題である。</p> <p>授業訪問は毎日欠かさず行ったが、授業についてじっくりと話し合う時間がなかなか確保できなかった。</p>	
-----	--	--

(4) その他

項 目	お も な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 学校の見える化により、保護者・地域との協力の円滑化を図る。	A
	2 児童数の減少・実家庭数の減少に応じて、PTA活動を見直す。	A
	3 新たな教育課題についての取組の準備と実践をする。	B
実践事項	学級通信の発行、ホームページの更新等により、学校の指導内容、児童の実態を知らせ、ともに子どもを育てる雰囲気を作成する。	A
	組織と事業内容のスリム化を進めるとともに負担感の少ないPTA活動を研究する。	A
	桑折町SDGs推進パートナーとして、具体的な取組内容の実践を推進する。	B
課題等	SDGsについては、児童会の委員会活動でも積極的な取組が見られるようになった。しかし、まだ、教育活動全体を通して意識して取り組まなければならない。	

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

令和 6 年 3 月 1 日

学校名 桑折町立醸芳中学校

職氏名 校長 菅野 重徳

令和 5 年度 学校経営評価報告書

1 学校経営の方針（教育目標及び重点事項）

桑折町においては、義務教育修了時の生徒の姿を「人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子」としている。そして、知、徳、体の観点から具体的な姿を設定している。醸芳中学校においても、この 15 歳のめざす姿を具現化するために、以下の教育目標とそれに伴った重点事項を設定し意図的、計画的に教育活動を推進してきた。

- (1) 自立 ～ 自ら学び、考え判断、行動し、自分を高める生徒（知）
生徒が互いに高め合う授業をします。 学力を定着・向上させます。
読書活動を充実させます。 志の教育を系統的計画的に進めます。
- (2) 利他 ～ 思いやりをもち、協力して、他者や社会のためつくす生徒（徳）
規範意識を高め、自主性を育みます。 いじめ、不登校に丁寧に対応します。
心の悩みの解決に努めます。 地域との交流を深めます。
- (3) 健康 ～ 命を大切にし、心身ともに健康で体力を高める生徒（体）
健やかな体づくりと体力向上を図ります。 健全な生活習慣を形成します。
命を守る安全教育を推進します。
- (4) 努力 ～ 何事にも真剣に取り組む生徒（態度）
努力する大切さを感じ得させます。 見通しをもつ力を培います。
挑戦する心、強い気持ち、感謝する心を育みます。
- (5) 保護者と連携を強化し、協力して生徒の成長を支えます。
保護者参観の充実（授業参観、醸中祭、三者面談等）
学校だより、学年だより、保健だより 等の定期的な発行

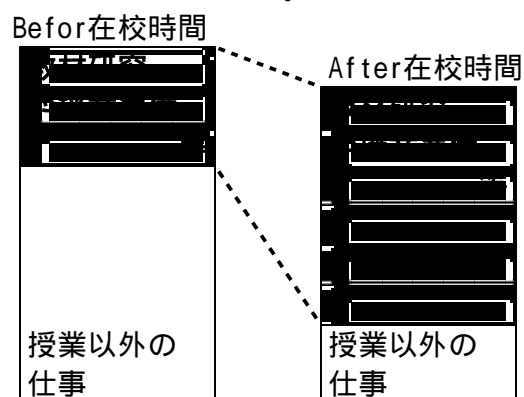
2 学校経営総合評価

- (1) 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ
教職員との面談、相談等を意図的に多く実施し、教職員の考えや意見を丁寧に受け止めることにより、教職員との信頼関係を基盤にした学校経営に注力してきた。
生徒指導、保護者対応においては、面談や家庭訪問を校長自ら行う必要性を早い段階で判断し、躊躇せずに実行し問題の深刻化を防いだ。
教職員に対する校長の姿勢としては、教職員それぞれの力量や特性に応じたサーバントリーダーシップを心がけ指導支援を進める一方で、状況場面に応じスピード感とガバナンスを意識した対応を心がけ、学校経営を進めてきた。
- (2) 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理
着任後、特別支援学級の体制が法令や通知に沿っていない点が大きく 2 つあることを見出した。具体的には、情緒学級各教科の授業がほとんど交流となっていた点と、知的学級において講師が、免許外教科を担当する点である。町教委と連携しながら、教職員と関係保護者の理解と協力を得ながら適切な指導体制に是正した。
教職員の意見や要望を踏まえ町教委各担当者との相談や報告を速やかに行い、新規事業「プリテッシュヒルズ英語実践研修」を推進したりコロナ禍明けの各種行事を時間対効果を踏まえながら改良し実施することができた。特に立志式においては、内容を縮減しながらも、充実を図り保護者や地域の方から好評であった。
- (3) 教職員の指導・監督
管理職としての聴く力を意識し教職員の援助希求性を高めることができた。また、心理

的安全性を高めるために職員室での教職員との対話を積極的に行い、教職員の関係や状況把握に努めた。そして、教職員間の人間関係トラブルや心の不安定な状況を早期に把握し対応にあたった。現在のところ教職員の大きなトラブルやメンタルヘルスの事案もなく、年間を通して安定した体制での学校運営を推進することができている。

(4) 教職員の意識改革

ベテランの教員が多いことを踏まえ、中学校教員の思考や行動の癖、習性に対して自覚的になりバイアスはずし、思い切って0ベースで、日々の教育活動を見つめ直してみるよう継続的に働きかけた。また、右のイメージ図等を用いて、働き方改革には授業準備確保という側面があることを認識させ教員への授業改善へ向かう意識を高めた。



講師を招聘した公開授業研究会や校内互見授業を町教委と密に連携しながら継続的に実施したことで、全教員が自己の授業を振り返り、授業に向かう意識を高めることができた。加えて、公開授業においては大学教員、附属教員、県教委指導主事等と本校教員がつながる機会となり、専門性を高めていくきっかけづくりになった。

3 学校経営課題（今年度の重点）の実施状況

(1) 学校経営

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 学校教育目標「自立」「利他」「健康」「努力」について、教員の意識を高め教育活動の具現化を図る。 2 働き方改革を推進し教員と生徒の活力を生み出し密度の濃い充実した教育活動を展開する。	B
		A
実践事項	教職員の取組や成果を詳細に見とり、適宜認め賞賛しモチベーションを高めている。こうした教職員との関係づくりに加えて、教職員の高齢化やそれぞれの事情を踏まえながら組織マネジメントを進めてきたことにより、組織としての力を高め、引き出すことができた。 来年度に向けて、日課の変更、定期テストや三者面談の設定といった点について、教員一人一人と話し合う時間を設け改革のコンセンサスを得た。	B
		A
課題等	義務教育の出口となる中学校で、卒業時に「桑折町の15歳のめざす姿」が具現化され、生きて働く力となる必要がある。そのために、授業、学校行事、家庭学習のあり方等、安全・安心を基盤に据えたすべての学校教育活動を、学校だけでなく、保護者や家庭、地域、町教育委員会との関連の中で吟味、検討し、相互の信頼関係を礎に力強く実践していく必要がある。 また、働き方改革と教育活動充実との両立を図りながら学校経営・運営を進め成果を挙げていきたい。	

(2) 学校教育の管理

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 . 全国学力学習状況調査、福島県学力調査をはじめ、各種調査結果を担当教員と共有し、成果、課題、取組を確認する。加えて客観的な数値を踏まえた学力保障、学力向上へと教員の意識改革を図り授業改善にあたる。	B
	2 . 授業をはじめとする生徒の学ぶ姿勢を確立する。	B
	3 . 価値観が多様化、複雑化している社会状況を踏まえた生徒指導、保護者対応を進める。	A
実践事項	今年度のふくしま学力調査の結果（学力のレベル・のび・学習方略・非認知データ）から「昨年度からの伸び」がマイナスになっている生徒が多く見られた。そこで、ふくしま学力調査「学力レベルと学力の伸び」グラフ化ツールを活用し、学力の経年変化、学力の伸びについて、個々の状況を確認した。その内容を踏まえて、管理職、学年主任、担任とで生徒や保護者へどのような助言をしていくかを相談した。その後、三者面談において経年変化や学力の伸びをもとに生徒、保護者との話し合いを行い、学力向上に取り組んだ。	A
	「生徒が納得するまとめの工夫」「生徒が満足する振り返りの工夫」を意識した授業を共同実践研究し、地区中学校教職員研究物審査会で最優秀賞を受賞した。	A
	授業の取組において改善が必要な学級や生徒の状況を全教員で共有し、危機感を持って対応にあたった。年度途中から、持ち時数の少ない教員の協力を得て、一部の学級、教科において、チームティーチングを実施し学びに向かう姿勢を向上させた。また、管理職や生徒指導主事が、日々の授業の様子を確認し、状況に応じて保護者と連携し個別の指導支援にあたった。予知予見に基づく生徒指導事前対応、さらに問題発生時の適切な初期対応と管理職の早期把握に努め、問題の深刻化を防ぐことができた。さらに問題事案対応を通して、生徒や保護者との信頼関係を構築するよう心がけている。	A
課題等	生徒の学力向上に向けた教師の授業改善、校内各種委員会等の連携による、生徒の望ましい学習・生活習慣、読書習慣形成に向けて、今後も有機的に指導を関連させ、継続して組織的に工夫した実践を積み重ねていく必要がある。	

(3) 人事管理（教職員の指導・監督）

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
	1 . 教職員の心身の健康状態を把握し、先を見通した早めの対策をとる。	A

重点事項	2．一人一人の教職員の実態を把握し、指導力向上の手立てを講じる。	A
	3．教職員の不祥事防止へ向けて状況を踏まえた指導をする。	B
実践事項	休日を含めた教職員の在校時間を確実に把握した上で長時間労働改善へむけた対応を進めている。	B
	職員室内での教職員同士の関係やその状況把握に努め、心理的安全性を高めている。	A
	「研修履歴シート」導入に伴って、各教員の状況と学校経営を踏まえそれぞれと対話を重ねて、実効性のある研修出張を設定することができた。研修成果が、学校経営や個人研究に直結するものが多かった。	A
	教職員それぞれの力量、特性を把握し、予知・予見を心がけ校務運営のミスや瑕疵がないよう個別の指導、支援を進めている。	B
課題等	ベテラン教師に対して経験則は、判断の根拠とならないことを事例を踏まえて確認し事故、不祥事防止に努めている。	B
	経験の浅い若手教員の経験知を高める業務時間確保と多忙化解消とのバランスやベテラン教員の意識改革など、教職員一人一人のステージや経験、家庭の状況等、実態を踏まえた適切な助言を、機会を捉えて継続実施していく必要がある。	
不祥事防止の面では、人身加害事故があった。事故防止徹底にさらに努めていく必要がある。		

(4) その他

項 目	主 な 実 践 事 項	評 価
		達成状況
重点事項	1 専門スタッフの力を生かした学校経営を進めチーム学校の具現化を図る。	B
	2 日々の教育活動を見つめ直したり、教育の動向を理解したりする機会を設け、ベテラン教員の教育観をアップデートする。	A
実践事項	SC、SSW、SSS、特別支援教育支援員、学校司書、ICT支援員など、多くの専門スタッフそれぞれが力量を発揮するように教頭との日々の打合せを通して業務管理を行い、マネジメントを進めている。また、各専門スタッフから得た情報を教員への指導助言に生かしている。	B
	「生徒指導提要」、通知通達、教育法規といった内容と現在の教育課題等との関係について啓発している。また、学校経営の方針との関係を示し、日々の職務の裏付けを確認した。	A
課題等	教員と各専門スタッフがより一層有機的に結びつく組織マネジメントに心がけていく必要がある。特に、ICT支援員については、ベテラン教員の授業力向上により深く関わられるような体制を検討する必要がある。	

【校長自己評価】

令和6年 3月 1日

学校名 桑折町立醸芳小学校

職氏名 校長 遠藤 和宏

令和5年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、教職員人事評価システム制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道徳、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	B
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	校長は、学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中及びPTAとの連携に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする。

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

【校長自己評価】

令和 6 年 3 月 2 1 日

学校名 桑折町立睦合小学校
職氏名 校長 齋藤 貴恵

令和 5 年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	B
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、町学力向上推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

※ 記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

【校長自己評価】

令和 6 年 2 月 2 9 日

学校名 桑折町立桑折町立半田醸芳小学校

職氏名 校長 五十嵐 洋之

令和 5 年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	B
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	B
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	A
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	B
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B

6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B
---	---	---

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A（4）：十分に目標を達成している。

B（3）：おおむね、目標の達成している。

C（2）：やや目標の達成には至っていない。

D（1）：目標を達成していない。

令和 6 年 2 月 2 9 日

学校名 桑折町立伊達崎小学校

職氏名 校長 佐藤 浩哉

令和 5 年度学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	A
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	A
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員とともに児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	B
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	A
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	A
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

学校名 桑折町立醸芳中学校

職氏名 校長 菅野 重徳

令和 5 年度 学校経営自己評価票

1 校長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教育目標の具現のため学校経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その浸透と理解に努めたか。	B
2	校長は、学校経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、新人事評価制度の面接等において個々の取り組みを評価し、教職員の指導力及び資質の向上に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学習権の堅持と生命の尊重を学校経営の柱とし、知・徳・体の調和のとれた学校経営に努めたか。	A
4	校長は、めざす学校経営の理念を児童生徒及び保護者や学校評議員に具体的に示し、地域と連携して教育課題の解決に当たったか。	A
5	校長は、児童生徒が夢や希望をもって学び、教職員が意欲をもって学校経営に参画できるよう、校風や伝統の確立及び職場環境の整備に努めたか。	B
6	校長は、教育の機会均等及び義務教育の理念を正しく理解し、公教育の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して児童生徒の自己実現が図れるよう全力を挙げて学校経営に努めたか。	B

2 学校運営及び児童生徒、学校施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教員の授業実施状況の管理及び指導力の向上や道德、特別活動の充実など、バランスのとれた学校運営に努め、教育委員会に届け出た教育課程を確実に実施したか。	B
2	校長は、児童生徒に確かな学力を身につけさせるため、教職員ともども児童生徒の特性や能力等の実態に応じ、特色ある学習活動を工夫し、「授業スタンダード」を活用して学力の向上に努めたか。	B
3	校長は、児童生徒の健やかな成長に資するため、定期的に児童生徒の健康状態を把握し、事故ある時は養護教諭と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	校長は、生徒指導上の諸問題について、日々積極的な生徒指導に努め、学習不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、児童生徒の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	校長は、定期的に学校施設内の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、児童生徒や教職員及び保護者・地域の学校利用者の事故防止に努めたか。	B

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、児童生徒をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	校長は、教職員の資質や能力及び教職年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、児童生徒が教職員を信頼し、楽しく充実した学校生活を送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	校長は、児童生徒の学級担任をはじめ他の教職員に対する苦情や訴え、声なき声に敏感に対応できる体制を構築し、児童生徒が安心して学校生活を送れるように努めたか。	A
4	校長は、教職員に対して常に「わかる授業」、「魅力ある授業」の創造に努めさせ、かつ教師一人一人の資質・能力の向上と教師としての豊かな人間性の高揚に努めたか。	A
5	校長は、日頃、教職員が学校施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険箇所の表示等、事故防止のための校内体制を整えるように努めたか。	B
6	校長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、「労働安全衛生管理体制」を整え、教職員の労務管理の重要性を認識し、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	A

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	校長は、児童生徒及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	校長は、町教育委員会の重点施策を理解し、校内体制を整え、組織を挙げて実現のために努力したか。	B
3	校長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、学校としてよく連携して地域の教育力の向上に努めたか。	B
4	校長は、町の青少年健全育成、学警連、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B
5	校長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、幼・小・中並びに家庭との連携の下に、授業改善・充実及び読書活動の定着に努めたか。	B

評価は、A、B、C、Dの4段階評価とする

A(4):十分に目標を達成している。

B(3):おおむね、目標を達成している。

C(2):やや目標の達成には至っていない。

D(1):目標を達成していない。

記入にあたって、形式・内容は同じ、評価のみ記入

第4 教育委員会の園長に委任する事務の管理 及び執行状況

【こども園長園経営評価】

令和6年3月22日

釀芳幼稚園長兼桑折町こども園長 齋藤 小百合

令和5年度 こども園経営評価報告書

1 園経営の方針

- (1) 教育・保育目標の具現化を図り、『心豊かにたくましく生きる子ども』を育成する。
- (2) 感染状況に応じた『学びの保障』をする。
- (3) 『安全で安心な幼稚園・保育所づくり』を推進する。

2 園経営総合評価

- (1) 県北ブロック保育研究会公開保育及び研究発表への取り組みや研修が職員一人一人の保育力の向上に繋がった。さらに保育活動に活かすことで園児に還元することができた。
- (2) 教育・保育計画に基づき、基本的な感染症対策を行いながら重点事項の実践に努め成果が見られた。
- (3) 園・所児が安全安心な環境でのびのびと過ごせるように月はじめの安全点検だけでなく日々の安全確認を行った。職員一人一人のさらなる危機管理意識の向上がみられた。また、発達年齢に応じた安全教育を継続する必要がある。

3 園経営重点事項の実施状況（幼稚園）

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した教育活動

項 目	主な実践事項	評 価
		達成状況
重点事項	園内研修や保育研究会を通して保育の質の向上を目指す	A
実践事項	・ 園内研修の充実	A
	・ 幼児自ら主体的に取り組めるような環境の構成と教師のかかわり	A
	・ 子どもの気付きや試行錯誤を大切にしたい考える過程を重視した保育	B
課題等	<p>県北ブロック研究会の公開保育や研究発表に取り組み、県北教育事務所指導主事の伊藤絵美先生に指導をいただいた。幼児の行動や言葉、表情から遊びを見取り、教材研究や環境を工夫することで幼児の主体性を引き出し自己発揮に繋がれることを再確認できた。</p> <p>基本的な感染予防対策を実施しながら、興味関心が持てる環境作りと主体性を大切にしたい援助を心がけた。異学年間のかかわりが遊びの幅を大きくし多様な経験を引き出すことができた。</p> <p>発達や理解力の差はあるが、遊びを通して幼児のイメージや思いを見取り、夢中になって遊べる環境を工夫することができた。</p>	

(2) 特別支援教育の充実

項 目	主な実践事項	評 価
		達成状況
重点事項	個別の支援・指導計画作成と各学期の反省、改善教育相談の実施	A
実践事項	・ 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築	A
	・ ユニバーサルデザインの視点を生かした環境設定・指導の工夫	A
	・ 保護者や関係機関との連携	A

課題等	<p>個別の支援・指導計画を作成し各学期に振り返り成果が見られなかった場合は改善を心がけた。支援児の困り感を受け止めながらニーズに合った環境作りや個々に応じた指導に努めた。</p> <p>担任と特別支援コーディネーターが必要に応じて情報を共有し現場での状況把握をしながら必要に応じて支援をする等、支援体制の構築に努めた。</p> <p>保護者や関係機関については特別支援コーディネーターが中心となり連携に努めた。今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
-----	---

(3) 体を動かす遊びの充実

項 目	主な実践事項	評 価
		達成状況
重点事項	体を動かす心地よさや楽しさを感じ取らせる教師のかかわりの工夫 体の基礎をつくり運動機能を発達させる遊びの充実	A
実践事項	・ 体力向上 1 園 1 実践への取り組み	A
	・ 運動遊びを誘発する環境の構成	A
	・ 身体諸機能の発達に応じた場の工夫	A
	・ 意欲を引き出す教材や教具の提示	A
課題等	<p>年間を通して実態を考慮しながら遊びたくなるように環境構成を工夫し体力向上 1 園 1 実践に取り組むことができた。</p> <p>自ら進んで取り組みたくなるような環境作りや援助に努めた。</p> <p>苦手意識が強く取り組もうとしない幼児へのかかわりについては、各担任が工夫してかかわり、意識して取り組んでいた。</p>	

(4) 絵本の読み聞かせ活動の推進

項 目	主な実践事項	評 価
		達成状況
重点事項	絵本に興味や関心を持てるような場や提示の工夫	A
実践事項	・ 経験や体験、または季節や時期に応じた絵本の提示の工夫	A
	・ 1 日 1 冊絵本を読む時間の確保	A
	・ 絵本の部屋の充実	A
	・ 家庭での読み聞かせの啓発 (1 日 1 冊)	B
課題等	<p>町からの予算を活用して絵本を精選し絵本の部屋や各クラスの充実に努めた。</p> <p>毎週水曜日に全家庭に幼稚園の絵本を貸し出しており、楽しんで読み聞かせをする家庭が多い。</p> <p>昨年度に引き続き、保育参観日に園長講話の時間を設け読み聞かせの大切さについて保護者に知らせた結果、殆どの家庭が意識して絵本の読み聞かせカードに取り組んでいた。一方では少数だが未提出や取り組みのない家庭もあったので継続して働きかけていきたい。</p>	

評価は、A、B、C、D の 4 段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。D(1)：目標を達成していない。

【園長自己評価】

令和6年2月13日

桑折町立醸芳幼稚園

職氏名 こども園長兼園長 齋藤小百合

令和5年度 幼稚園経営自己評価

1 園長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教育目標の具現のため、園経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	園長は、園経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか。	B
3	園長は、めざす園経営の理念を保護者に具体的に示し、園経営上の課題の解決に当たったか。	A
4	園長は、園児が毎日を楽しみ通園し、教職員が意欲をもって園経営に参画できるように、「園風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	B
5	園長は、幼稚園教育の理念を深く理解し、園の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して園児の自己実現が図れるよう全力を挙げて園経営に努めたか。	A

2 教育（保育）及び園施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教員（保育士）の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、教育課程（保育）を確実に実施したか。	B
2	園長は、教職員ともども園児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、園児の遊びの充実に努めたか。	B
3	園長は、園児の健やかな成長に資するため、定期的に園児の健康状態を把握し、事故ある時は教職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	園長は、園生活不適応やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、園児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	園長は、定期的に園内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、園児や教職員及び保護者・地域の園利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、園児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	園長は、教職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、園児が教職員を信頼し、楽しく充実した園生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	A
3	園長は、園経営に対する苦情や教職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、園児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	園長は、日頃、教職員が園施設の破損箇所及び危険個所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための園の体制を整えるように努めたか。	A
5	園長は、教職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	園長は、園児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	園長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	A
3	園長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、園としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	A
4	園長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	A
5	園長は、「学びのスタンダード」推進事業の趣旨に基づき、小・中及び家庭との連携推進に努めたか。	B

※ 4-(5)の項目は、保育所において評価対象外

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

【所長自己評価】

令和6年2月13日

桑折町醸芳保育所

職氏名 所長 三村 隆二

令和5年度 保育所経営自己評価票

1 所長の学校経営・運営上のリーダーシップ

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、保育目標の具現のため、所経営・運営ビジョンを教職員に周知し、その理解に努めたか。	A
2	所長は、所経営上の課題を明確に示し、その遂行に当たって教職員を指導し、その取り組みを評価したか	B
3	所長は、めざす所経営の理念を保護者に具体的に示し、所経営上の課題の解決に当たったか。	A
4	所長は、入所児が毎日を楽しく通所し、教職員が意欲をもって所経営に参画できるよう、「所風」や伝統及び職場環境の整備に努めたか。	A
5	所長は、所保育の理念を深く理解し、所の最高責任者としての立場から保護者や地域の実態を正しくとらえ、共に協力して所児の自己実現が図れるよう全力を挙げて所経営に努めたか。	A

2 保育及び所施設の管理

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、保育士等の保育実施状況の管理及び指導力の向上に努め、保育課程を確実に実施したか。	B
2	所長は、職員ともども入所児の特性や能力等の実態に応じ、特色ある保育活動を展開し、入所児の遊びの充実に努めたか。	B
3	所長は、入所児の健やかな成長に資するため、定期に入所児の健康状態を把握し、事故ある時は職員及び保護者と連携し医師の診断を仰ぐ等、適切に対応するとともに保護者に対し説明責任・結果責任を果たしたか。	A
4	所長は、所生活不適應やいじめ問題等にきめ細かな対応を行い、入所児の人格の尊重と命の遵守に努めたか。	A
5	所長は、定期に所内の施設の点検に努め、破損箇所をはじめ危険箇所等の発見と修理を適切に行い、入所児や職員及び保護者・地域の所利用者の事故防止に努めたか。	A

3 教職員の指導・監督

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、教職員の勤務状況を的確に把握するとともに、適正な服務監督に努め、入所児をはじめ保護者や地域から不信感を持たれることのないよう絶えず指導と監督に努めたか。	A
2	所長は、職員の資質や能力及び経験年数等を勘案し、絶えず教職員個々の指導力の向上に努め、入所児が職員を信頼し、楽しく充実した所生活が送れるよう指導・監督に努めたか。	B
3	所長は、所経営に対する苦情や職員に対する苦情・訴え等に敏感に対応できる体制を構築し、入所児が安心して学校生活が送れるように努めたか。	A
4	所長は、日頃、職員が所施設の破損箇所及び危険箇所を発見した場合、速やかな報告と危険個所の表示等、事故防止のための所の体制を整えるように努めたか。	A
5	所長は、職員が常に働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、健康管理の徹底と職務の効率的な遂行に努めたか。	B

4 教育委員会及び関係諸団体との連携

番号	主 な 評 価 事 項	評 価
1	所長は、入所児及び教職員の事故や不祥事が発生した場合、速やかに教育委員会に報告し、指導を仰ぐとともに適切な事故の対応に努めたか。	A
2	所長は、町教育委員会の重点施策を理解し、その実現のために組織を挙げて努力したか。	B
3	所長は、地域の各種団体の要請に誠意をもって応え、所としてよく連携して地域の保育力の向上に努めたか。	B
4	所長は、町の青少年健全育成、ボランティアセンター、交通安全協会等の関係団体との連携・協力や参画・活動の推進に努めたか。	B

評価は、A, B, C, D の4段階評価とする。

A(4)：十分に目標を達成している。

B(3)：おおむね、目標を達成している。

C(2)：やや目標の達成には至っていない。

D(1)：目標を達成していない。

※ 記入に当たって、自己評価の内容・形式は同じですので、評価の欄のみ記入となります。

第5 第三者評価委員会による評価

第三者評価委員による評価について

1 会議開催経過と主な内容

日時：令和6年2月16日（金）午後1時15分

場所：桑折町役場 中会議室

内容：令和5年度重点の説明（教育委員会重点、園（所）・学校経営重点説明と取組み状況報告）

日時：令和6年12月23日（月）午後1時30分

場所：桑折町役場 中会議室

内容：第三者評価の実施、評価の結果報告（答申と意見等の報告）

2 評価に対する評価委員からの意見等

【全体的な意見等】

- ・教育委員会の重点の表記が非常に簡潔であり、重点施策が明確である。
- ・桑折町としての組織的な取り組みと学校現場との一体感が随所に感じられた。
- ・学力向上については、長期的な視点に立って、一步一步実践を積み重ねてもらいたい。
- ・生涯学習等分野において、新たな企画と積極的な取り組みは高く評価し、魅力的なまちづくりが今後期待される。
- ・地域と学校が双方向に関わり合い、学校を核とした地域づくり、または、地域に信頼される学校づくりを推進していただきたい。
- ・歴史まちづくりは、ここ数年の取り組みで町の知名度も全国的にアップしたことは、町当局関係者の努力の賜物である。
- ・歴史・伝統と新たなまちづくりの融合は、桑折町の特色と言える。
- ・県内住みよいまちランキングで毎年上位に選ばれる桑折町は、基盤となる環境の良さや子育て支援等の行政サービスの良さはもちろんのこと、大きなポイントは、幼児教育、学校教育、生涯学習の質の高さと言える。
- ・各事業に対して、担当者の方が真摯に取り組む姿が、この報告書の方から拝見することができました。
- ・維持・継続されている部分と、少しずつ、もしくは大きく飛躍した部分と、着実に伸びてきているというのが実感です。
- ・桑折町が質の高い教育をされていると感じました。

【評価項目に対する意見等】

1 一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育

- (1) 〔学力向上〕子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を育成し、県トップレベルの学力を実現する。

- ・経年変化で同じ集団（学年）がどう変化しているのかを確認し、対応していくといいのではないか。

- (3) 〔心の教育〕子どもたちの豊かな心を育み、いじめ・不登校などの課題の解決をめざす。
- ・広島への派遣児童について、クラス2名ずつに増員してほしい。
- ・「タブレット利用の約束事」を、すべての学校の教育計画に掲載すべきである。

2 一人一人を大切に作る温かい教育

- (1) 〔特別支援教育〕特別に支援が必要な子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導・支援を行うことにより、学習・生活上の困難の克服・改善とよりよい成長の実現をめざす。
- ・通級指導については、どの市町村でも有効に利用、活用しており、とてもいい仕組みだと感じた。
- (2) 〔不登校対応〕子ども一人一人の状況に応じながら、関係者連携のもと組織的・計画的な支援を行うことにより、家庭や学校における生活の改善・充実をめざす。
- ・SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）の相談件数について、目標と実績などを掲載することが出来ないか、検討願いたい。

3 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

- (1) 〔英語教育〕子どもたちに英語の4つの技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の基礎を身に付けさせ、コミュニケーション能力の向上をめざす。
- ・ブリティッシュヒルズでの英語教育体験活動について、1泊2日で英語に親しむ体験は難しいと考えるので、2泊くらいの期間で体験活動ができればいいのではないか。
- ・ブリティッシュヒルズでの英語教育体験活動について、なかなか体験できない貴重なものなので町で実施いただいていることに感謝する。
- (2) 〔情報活用能力〕子どもたちにコンピュータ操作の基本やプログラミング的思考、情報モラルを身に付けさせ、情報技術を用いた問題発見・解決力の向上をめざす。
- ・学校における他小学校との交流において、ICTを活用した授業展開について、素晴らしいことである。
- ・他校との交流回数など、目標数値設定ができれば、なお評価しやすい。
- (3) 〔各種教育課題〕子どもたちに、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育んでいくことをめざす。
- ・放射線教育計画について、全ての学校に載っていると同時に、教育課程にも何時間か入っているようで、素晴らしいと感じた。
- ・ゼロカーボン宣言事業への参加について、すべての学校で取り組んでいることは素晴らしい。

4 幼児教育の質の向上と小中学校への接続

- (1) 〔保育改善・充実〕幼児教育に携わる教職員の資質・専門性の向上を図ることにより、子ど

もたちに知・徳・体の基礎を確実に培うことをめざす。

- ・県北ブロック研究協議会公開保育を実施した中で、アンケート等があれば、それらを目標と実績の数値で示してほしい。
- ・数値目標設定は難しい領域かと思いますが、何かできるものがあれば、評価がより客観的になるのではないかな。

(2) 〔小中学校との連携〕幼稚園教育と小中学校教育との円滑な接続を図ることにより、子どもたちの成長が効果的に積み重ねられることをめざす。

- ・認定こども園の部分は、避けようのない事柄であり、考え方によっては評価なしや評価しない項目でもよかったのではないかな。
- ・数値目標と数値実績について、可能であれば、交流活動、授業研究会、合同保育などがあるので、計画的に、目標的にどのくらいやろうとしたのかが見えると評価しやすい。

5 家庭への手厚い子育て支援

(1) 〔経済的支援〕「待機児童ゼロ」を堅持するとともに、子育てに係る家庭の経済的負担を軽減することにより、すべての子どもが平等に充実した保育・教育を受けられることをめざす。

- ・住みよい町ランキングでも上位であり、上向き傾向のいい項目である。

(2) 〔家庭教育支援〕家庭の教育力向上に向けた支援を行うことにより、それぞれの家庭で子どもたちが健やかに成長することをめざす。

- ・幼稚園等において町ホームページを活用し、情報提供を行っていることは素晴らしいことである。

6 小中学校のあり方の検討

(2) 〔学校運営の改善〕今後求められる教育を実施していくために必要な学校運営のあり方について検討し、その実現をめざす。

- ・コミュニティスクールについて、導入するメリットがあるのかどうか。

1 生涯学習活動の推進

(1) 生涯学習の推進

- ・数値実績について、講座数が増えたということは大変いい講座だったと思う。
- ・町の生涯学習の中身が2年前とか3年前とだいぶ変わってきており、非常に組織的で前向きな取り組みである。

(2) ライフステージに応じた多様な学習機会の提供

- ・講座数が増えており、参加者も増加しているのは、参加したい講座を考えた担当者の努力が大きいと感じた。

(3) 青少年育成と社会教育団体の活動奨励

- ・数値目標・実績について、町民会議参加者数を記載し、評価できるようにしてほしい。

(4) 心を豊かにする読書活動の充実

- ・動物バッジのプレゼント、読みくじ、本の福袋など、工夫しており、数値実績からは申し分ない評価である。

3 歴史まちづくりの推進

(1) 歴史的風致維持向上計画の推進

- ・歴史案内人の OB 等について、様々なイベント等に参加していただくとか、新たな歴史案内人の指導者として活用できないか。

第 6 参考資料

○桑折町教育委員会の所管事務に係る点検及び評価に関する第三者評価委員会設置に関する規則

平成23年4月27日教委規則第2号

改正 平成25年1月28日教委規則第4号

平成27年3月27日教委規則第1号

令和3年9月27日教委規則第2号

(設置の目的)

第1条 桑折町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の所管事務に係る管理及び執行状況について地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項に規定する点検及び評価を実施するにあたり、教育施策の改善・充実に向け、同条第2項の規定により外部有識者の知見を活用するため、第三者評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置する。

(所管事務)

第2条 評価委員会は、当該年度における次の各号に掲げる事項について評価し、その結果を教育委員会に報告する。

- (1) 教育委員会関係の管理及び執行状況及び事務局の事務執行に関する自己評価
- (2) 町立小・中学校の学校経営報告及び自己評価
- (3) 町立幼稚園経営報告及び自己評価

(組織)

第3条 評価委員会は、委員3名をもって組織する。

2 委員は、有識者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員長等)

第5条 評価委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを決める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議は委員長が招集し、これを主宰する。

(報告書)

第7条 評価委員会は、当該年度の評価結果を評価報告書にまとめ、翌年度6月までに教育委員会に報告する。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第9条 評価委員会の庶務は、教育委員会教育文化課において処理する。

(委任規定)

第10条 この規則に定めるものの他、評価委員会の運営に関し必要場事項は教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

附 則（平成25年教委規則第4号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年教委規則第1号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和3年教委規則第2号）

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

桑 折 町 教 育 大 綱

(令和3年9月24日 総合教育会議で決定)

本教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、町長が、町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものである。

本町においては、今回新しい町総合計画を策定したところであり、その内容に基づいて教育大綱を次のように改め、計画期間も総合計画と同様に令和4年度から令和13年度までとする。

1 基本目標

桑折町総合計画「献上桃の郷こおり 未来躍動プラン」に基づき、町の将来像「みんなが幸せを実感できる 元気なまち こおり」の実現に向け、教育・文化・スポーツ行政を推進する。

2 基本方針

- (1) みんなで子育て・教育に携わり、「子育てするなら桑折町」「桑折ならではの質の高い教育」と評価されるような乳幼児保育・教育や学校教育の推進を通して、子育て支援の充実と「桑折町の15歳のめざす姿（人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子）」の実現に努める。〔子どもを大切にするまちづくり〕
- (2) 生涯学習・生涯スポーツ事業の推進を通して、みんなが生きがいをもち、心身ともに健康で活き生きと暮らせるまちづくりに貢献する。〔健康長寿で元気なまちづくり〕
- (3) 歴史まちづくりの推進を通して、みんなが互いに協力し、町の魅力や元気を発信しながら、交流の輪が広がるまちづくりに貢献する。〔交流で絆を育むまちづくり〕

3 施策の体系と主な取組み

(1) 乳幼児保育と教育の充実	
①待機児童ゼロの堅持	◆認定こども園の開設に伴う既存保育所の運営移行 ◆保育士や支援員の確保と施設・設備の充実 ◆支援員の研修や関係者間の情報共有による保育体制の充実
②幼児教育の質の向上と小中学校への接続	◆環境を通しての遊びを中心とした総合的な指導の充実 ◆認定こども園との連携に基づく幼児教育の実施 ◆研修会・先進園視察実施 ◆自然と触れ合う活動の充実：自然体験・歴史体験・栽培活動の実施 ◆保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育研究会・授業研究会の実施 ◆幼児・児童・生徒の交流活動の実施
③家庭への手厚い子育て支援	◆特別支援教育の充実：ことばの教室・就学相談会 ◆幼稚園給食費全額補助、幼稚園入園祝い品制服贈呈、病児病後児保育利用助成 ◆子育て参考図書配付や家庭教育講演会開催、子育て相談、子育て支援策の情報発信
(2) 学校教育の推進	
①一人一人の能力を最大限に伸ばす質の高い教育の推進	◆学力向上（脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、家読奨励、桑折学習塾など） ◆体力向上（「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進、給食を活用した食育、運動身体づくりプログラム、運動継続の一校（園）一実践、地域スポーツとの連携など） ◆心の教育（不登校・いじめ対策、規律・礼節の重視、体験活動・平和学習・キャリア教育の充実、ふるさと教育（西山城見学など）の拡充など）
②新しい時代に必要となる資質・能力の育成	◆英語教育（英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成、英語体験活動の実施など） ◆情報活用能力の強化（1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習、ICT支援員配置・活用と教職員研修など）

③一人一人を大切にす温かい教育	◆各種教育課題への対応（防災・安全教育、持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育など）
④家庭への手厚い子育て支援	◆特別支援教育（特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用、関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立など）
⑤教育施設・設備の充実	◆不登校対策（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、不登校が起きない学級・学校づくり、教育支援センターによる教育機会確保と学校復帰支援など）
⑥小中学校の在り方の検討	◆経済的支援（給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与など） ◆家庭教育支援（参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援、情報提供や相談体制整備、子育て支援施策についての情報発信の強化など） ◆学校教育施設（長期的な維持・管理・整備計画の作成（学校プールの取り扱いも含む）） ◆給食センター（施設・設備の計画的な維持管理・整備、管理・運営の在り方の検討） ◆少子化への対応策の検討（学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討など） ◆学校運営の改善の検討（働き方改革や学校・地域連携・協働の推進、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入の検討など）
（３）生涯学習の推進	
①生涯学習活動の推進	◆生涯学習に関するニーズの把握 ◆「桑折町生涯学習推進基本計画」の見直し ◆ライフステージに応じた多様な学習機会の提供
②公民館施設等の管理運営	◆主体的に学ぶ機会の推進と場の提供 ◆ＩＣＴを活用した学習機会の提供 ◆地域での施設活用に対する奨励・支援 ◆各施設の計画的な維持補修 ◆イコーゼ！及びよも～よの適切な管理運営
③芸術・文化の振興	◆公民館等施設の近隣市町村との相互利用検討 ◆芸術鑑賞会や文化講演会の開催 ◆町文化団体連絡協議会（町文化祭事業含む）及び加盟団体等の活動奨励・支援 ◆町民が主体的に活動成果を披露する場の提供
④多世代交流の推進	◆地域学校協働活動事業 ◆こおり地域クラブの活性化 ◆ボランティア人材の発掘 ◆地域リーダーの育成 ◆青少年育成事業の充実
⑤多文化交流の推進	◆姉妹都市エリザベスタウン市との相互交流 ◆国際交流を推進する自主的活動への支援
（４）生涯スポーツの推進	
①健康・体力づくりを目指す生涯スポーツの推進	◆各種スポーツイベント、講演会等の開催 ◆健康・体力づくりのための事業展開
②スポーツ団体等の支援	◆各種スポーツ団体への活動支援（補助金、奨励費等の交付）
③体育施設等の充実	◆スポーツ公園（仮称）整備の検討 ◆体育施設全般の有効的な管理運営方法の検討 ◆体育施設の経年劣化に伴う計画的な維持補修 ◆体育施設の近隣市町村との相互利用の検討
（５）歴史まちづくりの推進	
①歴史的風致維持向上計画の推進	◆歴史的風致維持向上計画の見直し及び推進 ◆歴史案内人育成と体制の充実 ◆既存の散策ルートを活用した歴史遺産周遊路の設定
②文化財の保護・活用の推進	◆史跡桑折西山城跡の保存団体を組織し、維持管理や案内を行う体制づくり ◆文化財の新規指定と国・県指定への格上げ ◆伝統文化の継承に対する支援及び発表の機会の提供
③桑折町文化記念館の復旧と役割の見直し	◆文化記念館の復旧 ◆文化記念館の歴史探訪・観光拠点機能の充実 ◆資料や美術品を保管・公開する博物館機能の充実



桑折町教育振興基本計画（2022～2031）の概要

令和3年8月策定

桑折町教育委員会

これは、令和4年度から10年間のまちづくりについての計画「桑折町総合計画」との関連を図りながら策定した、今後10年間の桑折町教育計画の概要です。本計画の柱となるのが、**教育理念**・**めざす子ども像**と、それを実現するための**基本的な視点**をまとめた「桑折町の15歳のめざす姿」です。さらに、それぞれの基本的な視点に基づいて**具体的な施策**を計画し、実施していきます。

教育理念・めざす子ども像（その1） 「人間としての基本」とは、知・徳・体の基礎（確かな学力、豊かな人間性、健康・体力）であり、「人間としての強み」とは、豊かな感性・主体性・思考力・創造力です。これを育成することが教育の普遍的使命であり、時代を超えても変わらない教育の「不易（ふえき）」です。

教育理念・めざす子ども像（その2）

「たくましく未来を切り拓いていく」ためには、変化の激しいこれからの社会に必要とされる力を身に付け発揮することが求められます。これを育成することが未来を見据える教育を行うことであり、時代によって変わっていく教育の「流行」です。

桑折町の15歳のめざす姿

人間としての基本を身に付け、強みを発揮して、**たくましく未来を切り拓いていく桑折っ子**

教育理念

教育理念・めざす子ども像（その3）

「桑折っ子」は、郷土への理解と愛情、地域や社会に貢献する志を持った子どものことです。これを育成することが地域に根ざした教育、桑折ならではの教育を行うことです。

具体的な施策

- ◆ 脳科学研究に基づく生活習慣改善、読み・書き・計算徹底反復、探究型授業による主体的・対話的で深い学びの実践、家読奨励、桑折学習塾
- ◆ 「早寝・早起き・朝ごはん」町民運動の推進、給食を活用した食育、運動身体づくりプログラム、運動継続の一校（園）一実践、地域スポーツとの連携
- ◆ 不登校・いじめ対策、規律・礼節の重視、体験活動・平和学習・キャリア教育の充実、ふるさと教育（西山城見学など）の拡充

- ◆ 学校施設・設備について、長期的な維持・管理・整備計画の作成
- ◆ 給食センター施設・設備の計画的な維持・管理・整備、今後の管理・運営のあり方の検討

- ◆ 英語指導助手・指導協力員の活用、英検受験奨励・費用助成、英語体験活動の実施
- ◆ 1人1台端末と高速大容量通信ネットワークを常時活用する授業、家庭でもつながる通信環境を活用するオンライン授業や家庭学習、ICT支援員配置・活用と教職員研修、ICT教育環境の整備と充実
- ◆ 防災・安全教育、持続可能な開発のための教育、感染症対策も含む健康教育

- ◆ 特別支援学級・通級指導教室・特別支援教育支援員の活用、関係機関との連携による切れ目のない支援体制の確立
- ◆ 不登校が起きない学級・学校づくり、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用による教育相談体制づくりと家庭への支援、教育支援センター等による教育機会確保と学校復帰支援

- ◆ 保育改善・充実に向けた研修会や視察の拡充
- ◆ 保育所・幼稚園・小学校・中学校の合同保育・授業研究会、幼児・児童・生徒の交流活動

- ◆ 学校小規模化の現状と今後の推移についての把握と分析、小学校統合についての様々な観点からの検討
- ◆ 小中一貫教育やコミュニティ・スクールの導入などの検討、学校における働き方改革の推進

- ◆ 保育所や預かり保育の「待機児童ゼロ」を堅持していくための受け入れ体制の整備
- ◆ 給食費助成・制服贈呈・就学援助・奨学資金貸与・病児病後児保育利用料助成
- ◆ 参考図書配付や家庭教育講演会開催による家庭の教育力向上支援、情報提供や相談体制整備、子育て支援施策についての情報発信の強化

めざす子ども像

変化の激しいこれからの社会に必要とされる力を身に付けた子ども
郷土への理解と愛情、地域や社会に貢献する志を持った子ども

基本的な視点

